

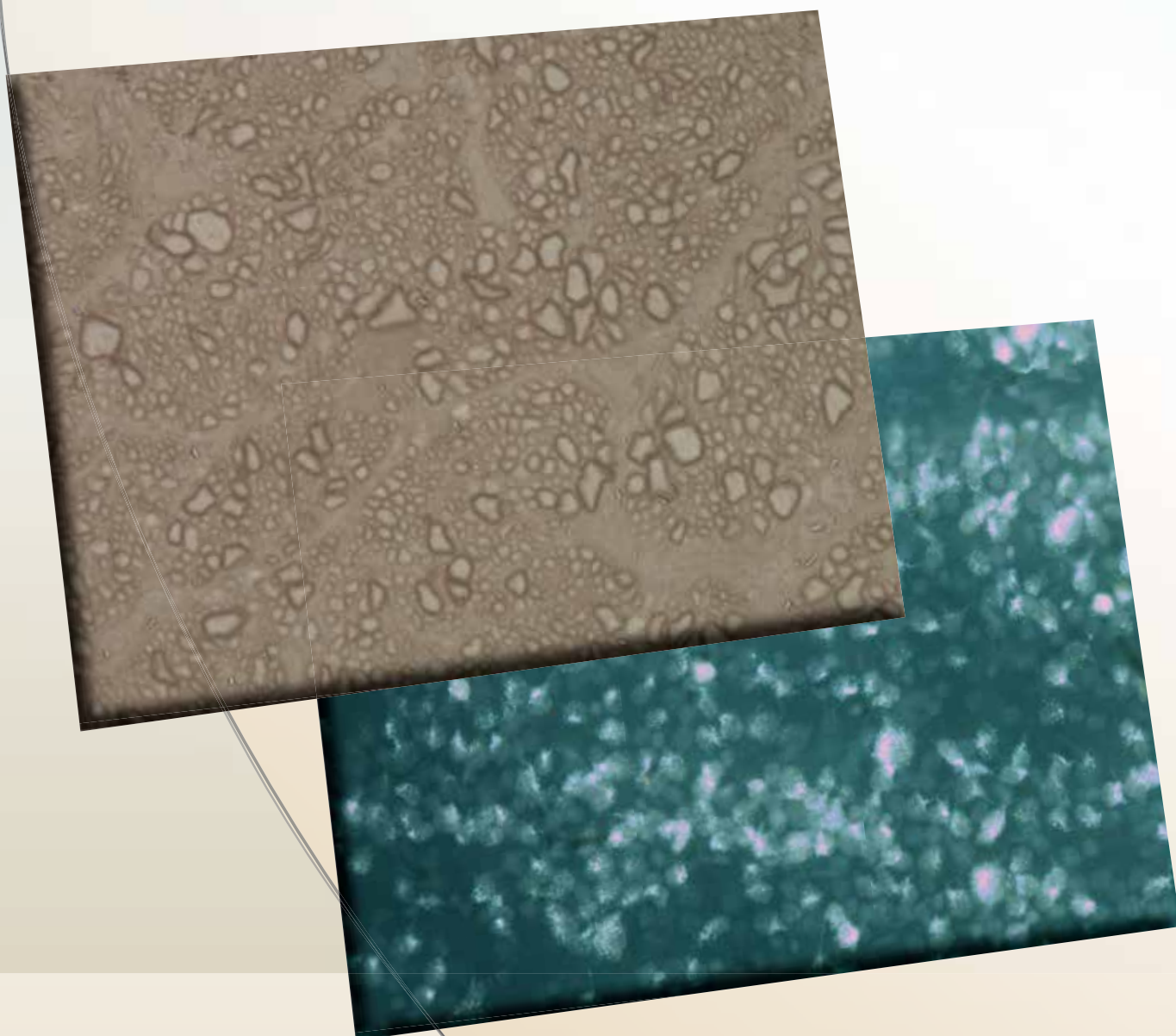


聖マリアンナ医科大学 眼科学教室

DEPARTMENT OF OPHTHALMOLOGY

St.MARIANNA UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE

ANNUAL REPORT 2020



目次 Contents

- 04 巻頭言ご挨拶
- 08 診療案内
- 15 新入局者紹介
- 17 研究紹介
- 21 教育活動
- 22 主催学会
- 24 学会発表
- 28 医局活動
- 30 関連病院紹介
- 34 同門会だより
- 38 業績
- 43 編集後記

Cover photos are Optic nerve axons
and Retinal ganglion cells



Introduction

巻頭言



聖マリアンナ医科大学眼科学教室
教授 高木 均

営にも力をお貸しいただきたく願っております。

もう一つの出来事は荒川明先生が8月1日付で西部病院の病院教授に昇任されたことです。荒川先生はもともと船員保険病院で築かれた人脈も多く、横浜市西地区での人気は絶大なものがあり、多くの紹介患者が手術を受けにいられています。田口芳雄病院長による推薦もありこの度昇任いただくことができました。研修医の指導にも大変熱心な先生であり、今後若手医師をどんどん戦力として鍛え、ますます西部病院眼科を発展させられることは間違いないものと確信しております。また、稲城市立病院は数年前から当科の関連病院となっていました。南 早紀子先生が博士号を取得されたのを機に出向講師に昇任いただくことになりました。先生は加齢黄斑変性の臨床研究でたいへん優れた研究成果を次々にあげられています。この分野でのオピニオンリーダーとしてますます、我々の教室を牽引していただきたいと期待しております。

新入局に関しては4月に4名の先生を迎えることができました。実は他にも2～3名の入局希望者がおられましたが、専門医制度機構より当科の受け入れ人数を制限されてしまいました。2019年度が厚労省からの人数制限の枠組みが始まる初年度となりました。どうやら厚労省の今後眼科医の人数を制限して減少させていく方針のようです。私たちも新入局の先生をできるだけ多く迎えようと毎年全力で努力してまいりました。手術執刀を含めた早期臨床体験型研修への評価もあって当科入局人気は高まってきておりましたが、少し水を差されることとな

多くの医療関係者の方々には常日頃聖マリアンナ医科大学眼科の運営並びに診療・研究にご尽力頂き心より御礼申し上げます。今年度の聖マリアンナ医科大学の活動報告をここにさせていただきます。

本年度は大きな二つの出来事が人事面でございました。6月1日付で北岡康史准教授が大学院分子神経科学教授に就任されました。視神経損傷モデルによる分子神経学的研究の成果が高く評価され欧米の一流ジャーナルに多数論文が掲載されていましたが、その功績を高く評価されてのことであろうかと思えます。大学院の頃より北岡先生が師事しておられた薬理学の松本直樹教授はじめご尽力いただいた先生方に心より感謝申し上げます。教室から新たな教授を輩出したことは、我々医局員ばかりでなく、同窓、近隣の先生方や関係各所の方々にも大変うれしい出来事でした。今後は臨床からは少し離れるスタンスとなりますが、研究の成果をさらにつみあげ、新規教室の発展に邁進されることと思えます。我々も大学院生の派遣や協力をかわらず続けていく所存です。また、忙しい中申し訳ありませんが、引き続き外来など医局運

りました。そうは言っても、新人の入局は何よりも大事ですから、引き続き、メインテーマとして全力で尽力していきたいと思っております。

このように若い先生方の入局は途絶えることなく比較的順調に推移しているのですが、指導者層の人員が不足しているのは明かです。私自身もあらゆる人脈を頼りに、当科に准教授クラスで来ていただける人材を探索し続けておりましたが、今のところ見いだせていないのが現状です。現状の構成員で頑張っていくしかないのですが、引き続き医局を活性化するためにも新たな人材を求めて行きたいと考えております。

診療面では手術件数が大変増加しておりました。特に MIGS とよばれる minimally invasive glaucoma surgery の件数が非常に多くなりました。従来長時間かかっていた手術が効率よく安全に行えるようになりました。この結果、点眼治療から手術治療に切り替えるタイミングが早くなり手術へのハードルが下がってきています。徳田直人講師による緑内障外来・手術の件数はうなぎ上りに増加しており、その八面六臂の活躍には敬意を抱くばかりです。また、網膜剥離を含む網膜硝子体手術も多くのご紹介をいただき、手術件数の増加に貢献しています。人材面の破綻によりかなり厳しくなっていますが、若手医師を何とか独り立ちさせて引き続き診療面でのアクティビティを維持できるよう努力していきたいと考えています。

研究面では、中心的に活躍されていた先生の退職などもあり、少し臨床研究はペースダウンしているのは否めないのかと思います。しかし、若い先生方の成長も著しいのでそろそろ種をまく時期から育て刈り取る時期になり

つつあります。海外ジャーナルへの発表を目指して引き続き努力してまいりたいと思います。基礎研究に関しては北岡先生の視神経細胞研究が好調ですし、網膜グруппの血管研究において成果が出ておりさらに発展が期待されるところとなっています。

2019 年は概ね乗り切ってまいりましたが、今後先進医療廃止や保険点数の改正など眼科への風当たりは強くなってきそうです。聖マリアンナ医大においても病院建て替えもあり、検査機器等の新規購入のない状態が続いており、メディカルコーディネーターが廃止されるなど、何かと風当たりが強くなってきております。私事ですが、8 月に医局の先生たちと風速 25 メートルの暴風雨の中、富士登山、初登頂に成功致しました。まだまだ、自身の体力気力に自信を深めるとともに、医局員の力を合わせて難局に立ち向かっていきたいと心を新たにしましたところです。2020 年の聖マリアンナ医科大学眼科学教室もさらに診療・教育・研究に邁進してまいりたいと存じます。今後とも皆様からご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

高木 均



ご挨拶

分子神経科学 大学院講座 北岡 康史

このたび令和元年6月1日付で、聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科分子神経科学教授に就任いたしました。今後もこれまで以上に Neuroscience の研究に邁進したいと思います。

私は大学院生時代から神経変性疾患である緑内障の神経保護研究に取り組んでまいりました。緑内障は網膜神経節細胞がアポトーシスを起こすことが知られています。現在の実臨床での治療は眼圧下降のみですが、本邦では正常眼圧緑内障が全緑内障の8割と多く、眼圧のみでは説明できない病態生理が存在するのは明らかです。国内外の研究者は1999年ころから網膜神経節細胞の anti-apoptotic therapy 発見に精力を注いできました。当時私も含め多くの研究者はグルタミン酸過剰説を信じており、動物モデルでは硝子体内にグルタミン酸受容体を刺激する NMDA を投与するモデルを頻用しておりました。このモデルは投与後12時間から24時間で網膜神経節細胞のアポトーシスを起こします。しかしながら緑内障患者の硝子体内グルタミン酸濃度上昇を示した有名な海外論文に問題点が指摘され、またそのころ留学先のボスから NMDA モデルは網膜神経節細胞が先に死に、視神経軸索が後から変性を起こすから緑内障とは異なると指摘されました。私は2003年から2005年にロサンゼルス の Doheny Eye Institute に留学しておりましたが、そこで視神経軸索変性が網膜神経節細胞死より先行する TNF モデルを発表いたしました。その時から私の興味は網膜神経節細胞の細胞体保護から視神経軸索保護にシフトしていったのです。

帰国後から今日に至るまで14年間軸索保護研究を行ってまいりましたが、その中で軸索変性が先行するもう一つのモデルとして高眼圧モデルがあり、その視神経においてオートファジー活性が低下していることを見出

しました。以来 TNF モデルや高眼圧モデルでオートファジー関連の発表をしてまいりましたが、新しい治療戦略としてポテンシャルの高い細胞内シグナル経路であると考えております。

臨床面では、引き続き目の前の困っている患者さんは緑内障手術で対応し、同時に眼圧下降以外の新しい治療開発実現にも取り組んでいきたいと思っております。

私の研究がある程度の成果を上げてきたのも、優秀で研究を楽しめる大学院生の存在があったからだと思っております。研究はうまくいかないことも多く、一見して止まっているような時間もこれまでにたくさん経験しました。しかし、同じ目的に向いている先生たちの存在により、本当に研究の手技から学会発表そして publish までの process が楽しい時間、知的興奮を楽しめる時間となるのです。また同じ分野でもっとハイレベルな研究をされている他大学、他研究施設の先生たちには、日頃から学会や研究会で一緒にさせていただき、本当に感謝しております。今後とも緑内障の基礎研究の火を絶やさないうよう、微力ながら本邦の神経科学の発展にも寄与したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

横浜市西部病院眼科病院教授就任あいさつ

横浜市西部病院 荒川 明

私は平成 28 年 7 月から、横浜市西部病院にて眼科学准教授として勤務してまいりましたが、このたび令和 1 年 8 月 1 日付で同院病院教授を拝命いたしました。

振り返ってみますと 3 年余り前に横浜市西部病院に着任できたことは、私にとって非常に幸運なことだったと思います。それまでに私は近隣の医療機関である横浜船員保険病院（現在の横浜保土ヶ谷中央病院）と横浜市立大学市民総合医療センターで延べ 10 年間にわたって勤務しておりました。その間、多くの診療所や病院の先生方との病診連携があり（そのひとつに横浜市西部病院もありました！）、種々の会合でそのような先生方と直接お話しする機会がしばしばありました。そのため、当院赴任当初から円滑な病診連携が開始できたと記憶しています。私はこれまでの医師人生で比較的多く異動をしている部類に入るのではないかと自覚しています（30 年間で 11 か所）。異動に当たってはそのときの同僚・上司をはじめ、担当していた患者様にも多くのご迷惑をおかけするわけで、異動が多いことは決して好ましいことではないと考えます。しかし、私が今の環境で満足のいく診療ができてるのは、私の異動の希望を理解いただき、私を送り出してくれた方々のおかげと感謝しています。これからもその恩を忘れずに診療に努めてまいりたいと思います。

幸い当科に赴任してからの 3 年あまり、ご紹介いただく医療機関および患者さまの数は年々増加してきております。当科に期待される役割は大きく 2 つあると考えています。ひとつは医科大学関連病院の特殊性に対する期待です。つまり、難治性疾患や、術中全身麻酔による管理が必要な症例への治療に対する期待です。もうひとつは診療所で治療可能な疾患でも、種々の理由からそこでの診療を行えない症例への診療に対する期待です。紹介患



者さまの増加は、私なりに当科のこのような役割を意識した病診連携が順調であったことの表れと感じています。一口に「病診連携が順調」と申しまして、決して少なくない網膜剥離などの急患の対応を常に滞りなく実施し続けるには、かなりの努力が必要だった訳ですが、医局の先生方をはじめ、受付や入退院係を含む多くの事務職員の方々、外来・病棟・手術室の運営に携わる多くのコメディカルの方々の眼科業務に対する御理解と御努力のおかげで無事に乗り越えて来られました。この紙面をお借りして、心から感謝を申し上げます。

これからも微力ではありますが、眼科医療および聖マリアンナ医科大学の発展に努めてまいります。引き続きのご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

Medical services

診療案内



川崎市は横に長い市です。当院がある宮前区から JR 川崎駅がある川崎区までは実はかなりの距離があり、そこには 100 万人を超える人々が生活しています。「最寄りの駅」という表現にふさわしい駅がなく、遠方からお越しいただく患者さまからは、「交通の便が悪い」とお叱りを頂くこともあります。しかし交通の便が悪いからこそ、当院がある宮前区をはじめ、近隣の多摩区、麻生区、高津区の患者さまには特に必要とされる病院なのではないかと思えます。それゆえ、近隣の先生方との病診連携は極めて重要であり、日頃先生方からのご紹介は大変ありがたく感謝しております。

当院では各医療機関の先生方から、あらかじめ患者さまの情報をメディカルサポートセンターに FAX いただき、カルテを準備し外来予約を取ることが可能です。専用の FAX 用紙（FAX 番号も添付）は聖マリアンナ医科大学病院ホームページからダウンロードできます。初診受付は月曜から土曜日まで午前 8:30 から 11:00 となっております。現在土曜日も毎週初診を受け付けております。また、上記の時間外でも緊急性の高い症例につきましては病院外来にお電話いただけましたら随時対応いたします。

さて、眼科外来診療においては Claio システムを導入しており、既に完全電子カルテとなっており、スムーズな外来診療の一助となっています。OCT は従来のスペクトラリス OCT から最新の OCT アンギオグラフィーや前眼部 OCT（CASIA 2）、ハイデルベルグスペクトラリスなど取り揃えており、あらゆる疾患に対応できるシステムになっています。また 2020 年 3 月から後藤聡非常勤講師による涙道外来がスタートしました。今後は涙道疾患のご紹介もお待ち申し上げております。

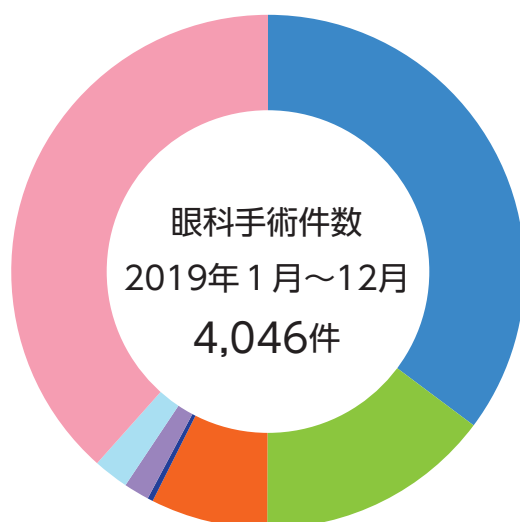
手術については、白内障では多焦点眼内レンズの用意はもちろんありますが、比較的多くの種類から選択することが出来るため、患者さまのニーズに合った眼内レンズを見つけることが出来ると思います。またこれまで同様に網膜硝子体手術と緑内障手術の件数は多く、術後入院管理で経過を診させて頂くため安心です。網膜硝子体疾患としては網膜剥離をはじめ、糖尿病網膜症、網膜前膜、黄斑円孔、網膜分離症など様々な疾患に対応させていただいております。緑内障手術については新生児から後期高齢者まですべての年齢層とすべての緑内障病型に対応できていると思います。また手術のみならずメディカルレチナの領域（黄斑変性、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫など）でも造影検査から抗 VEGF 薬投与まで積極的に行っております。

このように、当院眼科では特定機能病院として質の高い医療、手術を心掛け、そしてご紹介元の医療機関さまにお戻しすることを基本に、患者さまの希望も尊重しつつ対応してまいります。今後とも患者さまを当院眼科にご紹介いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

●眼科診療実績

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
外来患者数 (人)	35,932	32,757	29,457	29,273	29,264	31,649
初診患者数 (人)	4,341	4,237	4,199	4,057	3,942	4,051
再診患者数 (人)	31,591	28,520	25,258	25,216	25,322	27,598
入院患者数 (人)	1,554	1,615	1,544	1,559	1,557	1,793

●眼科手術件数



白内障手術	1,425件
網膜硝子体手術	600件
緑内障手術	298件
斜視手術	14件
外眼部手術	65件
その他	90件
抗VEGF薬硝子体注射	1,554件
合計	4,046件

●眼科外来担当医表

2020.3 現在

		月	火	水	木	金	土
	教授外来		高木 均	高木 均 (第1・3・4週)			
	初診外来	向後二郎	海老原紘子	佐瀬佳奈	北岡康史	徳田直人	(1週目) 重城 (2週目) 畑 (3週目) 塚原 (4週目) 重城
午前	再診外来	小島 香 金成真由 中村芽衣子 豊田泰大 吉村雅弘 戎谷さくら	末永華子 重城達哉 藤田直輝 大坪瑞季 和田圭司 教授付き 戎谷さくら 吉村雅弘 ◎造影外来 重城達哉	北岡康史 向後二郎 金成真由 畑 真由美 塚原千広 豊田泰大 山田雄介 教授付き 吉村雅弘 和田圭司	中村芽衣子 佐瀬佳奈 畑 真由美 塚原千広 大坪瑞季 和田圭司	小島 香 金成真由 末永華子 山田雄介 吉村雅弘	第1週 山田／和田 第2週 大坪／戎谷 第3週 藤田／和田 第4週 山田／戎谷
午後	◎特殊外来	◎緑内障外来 徳田直人 小島 香 豊田泰大 山田雄介	◎NCU 外来 海老原紘子 重城達哉	◎LV 外来 担当医 ◎緑内障外来 北岡康史 ◎斜視弱視外来 畑真由美 ◎涙道外来 (第2・4週) 後藤 聡	◎CL 外来 (第2週) 松澤亜紀子 ◎斜視弱視外来 畑 真由美	藤田直輝(PM) 戎谷さくら(PM) ◎NCU 外来 海老原紘子	

Medical services

診療案内 各部長より

外来医長
より一言

外来は基本紹介状持参の患者さんが多いですが他科通院中の方であれば受診することが可能となっております。紹介患者さんは白内障、網膜硝子体疾患、緑内障疾患が多いですが、白内障に関しては過熟白内障や水晶体脱臼などの難症例が多く、10－20年前に施行されている眼内レンズの脱臼の患者さんが多く来られます。昨今の医療技術の進歩により水晶体・眼内レンズ関連の難症例の方も1－2日の入院で対応可能となっております。近隣の開業医の先生方の心強い協力のもと良好な医療連携ができており、軽症で経過観察が主な患者さんは近隣の先生のもとへ、悪化したら再度大学へ紹介を受けて症状安定したら再度近隣の先生のもとへ、というようなシステムが構築されてきていることを実感しております。

本年3月より月2回隔週の水曜日に涙道疾患のエキスパートである後藤聡先生が非常勤講師として当科の仲

間入りになったことが大きなニュースであります。今まで涙道疾患に縁のなかった20年目の小生も後藤先生の外来を見学させていただくと目から鱗が落ちるほどに診断・治療・説明の洗練されていることに感動すら覚えました（こっそりいろいろと会得しようと思っています）。

話は変わりますがこのannual report作成時はコロナウイルスにより全世界で外出の自粛や行動制限が行われており、通常の外来に戻るのはいつだろうか？とみんな悩んでおります。しかしこれにより医療の在り方や大学病院、クリニックの在り方など改善されることは多くあると感じており、また新たな医療のスタートになると感じております。ただ単に以前の状態に戻ることを切望するだけではなく、これを期に新たな医療業界を作り替えるつもりで邁進していくつもりです。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

向後二郎

病棟長 より一言

当病院は全国で 86 施設存在する特定機能病院の一つです。その役割として、1. 高度の医療の提供、2. 高度の医療技術の開発・評価、3. 高度の医療に関する研修、4. 高度な医療安全管理体制、の 4 つが明記されています。2019 年度はこの 4 つを意識していましたが、果たしてそれが出来たかどうか、反省の意を込めて振り返ってみます。

1 つ目の「高度の医療の提供」についてですが、これは網膜硝子体関連については高木教授、向後講師などが最先端の硝子体手術を行い、良好な成績で患者さまの眼の健康に寄与していると思います。また緑内障関連についても北岡教授や筆者が担当している緑内障外来宛に多くの紹介患者さまをご紹介頂き適切かつ最新の医療を提供できていると思います。斜視弱視分野についても畑助教が順天堂大学 根岸貴志 先生からご指導いただいた技術を発揮し始めており、来年度の本稿ではさらによい報告が出来ると思います。また今後は後藤非常勤講師により涙道疾患にも対応出来るようになります。今回の診療報酬改定でも涙道系の手術点数が上がっていることから今後需要がさらに増える領域ということがわかります。この分野は明らかに高度な特殊技術を持った医師しか対応できないため、来年度以降、当院の注目の外来になるかもしれません。

2 つ目の「高度の医療技術の開発・評価」にある「評価」の部分においては、27G 硝子体手術システムや緑内障手術用デバイス積極的に使用し、その結果を学会発表や論文で広めることが出来たと思いますが、来年度はもう少し多くの最新機器を導入し評価していきたいと考えています。

3 つ目の「研修」についてですが、これについては少し反省しなければならないかと思っています。手術件数が増えることはその施設の知名度、信頼度の向上を意味

するとも言えます。しかしたくさん手術をこなすには多くの時間を要するため、教育に割く時間が少なくなっていることは筆者自身が痛感しています。紹介して下さる近隣の先生方の期待に応えつつ、若手の教育も行うことはなかなか難しいことです。しかし最近になり、育てた人材が次の若手の指導をするような場面を目にすることが増えてきているように感じます。筆者が出来ていない分を中堅層がカバーしてくれていることに頼もしさを感じるようになりました。

4 つ目の「医療安全」についてですが、考えてみると当科は医療ミスを起こしやすい材料が多く存在します。白内障手術を例に考えてみても、左右、そして眼内レンズの種類、屈折誤差など様々な注意点があり、これを一つでも誤れば患者さまへの不利益に直結します。白内障術前、患者さまは術後の最高の状態をイメージしますが、我々は合併症など常に最低の状態を想定し、そうならないための予防とそうなったときの対応を意識する必要があります。このようなことを日々指導しております。

2020 年 2 月 11 日に亡くなった元プロ野球選手、監督の野村克也さんの数々の名言の中に、「金を残すは三流、名を残すは二流、人を残すは一流」というお言葉があります。人を育て、残すことの難しさを感じながら来年も彼ら、彼女らに向けて旗を振り続けたいと思います。

徳田直人



手術指導
(和田・向後)

Medical services

診療案内

専門外来担当医師より

涙道外来

後藤 聡

2月に慈恵医大を辞め、縁あって聖マリアンナ医大の非常勤講師に頂きました。第2・第4水曜日の午前手術・午後外来をさせて頂いています。

涙道診療は耳鼻科・頭頸部外科との境界領域のため、また失明や生命とは直接関係ないことが多いため、眼科医にとっては不慣れな分野かと思えます。

当専門外来では成人の涙道閉塞、先天性鼻涙管閉塞、涙小管炎、原因不明の流涙症の診断・治療を行っています。

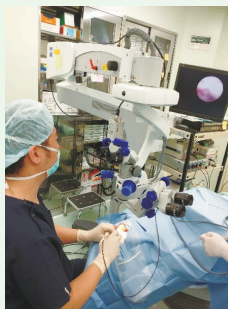
外来を行っている水曜日は聖マリアンナ眼科の全身麻酔日ともなっているため、入院・全身麻酔の必要な小児の涙道疾患の治療も今後検討しています。

4月には私が得意とする涙道内視鏡手術と、5月以降に涙嚢鼻腔吻合術も予定しており、今後涙道疾患のほぼすべての治療が聖マリアンナ医科大学でも可能となっていきます。

また私の専門とする涙道診療・手術の啓蒙・教育も行っていく予定ですので一人でも多くの涙道術者が当院から輩出されることを期待しています。

ご注意) 先天性鼻涙管閉塞の治療は4・5か月から12か月までの間に行っています。

1歳以降は入院・全身麻酔での治療となります。また早期ブジーは合併症として敗血症のリスクなどが知られていますので風邪など体調の悪い時にはご紹介をお控えください。前回のブジーから1か月以上は間隔をあけた方がいいためご紹介の際はよろしくお願いいたします。



第2・第4 水曜日 午後よろしくお願いいたします。

網膜硝子体

向後 二郎

抗 VEGF 薬を中心としたメディカルレチナは外来担当医全員で診療を行っております。AMD に関しては Treat & Extend を基本 regimen としていますが PCV に対しては PDT 併用を初回から行うことが多くなってきました。Zeiss の PLEX Elite のおかげで C N V の検出が上がり病態理解も深まり入局して間もない先生達の担当医の診断・治療の成長には驚かされております。そのおかげで安定した診療が継続されていると思っております。硝子体手術に関しては、術者の退職や異動もありましたが、入局3-4年目の先生たちの成長もあり緊急手術にも対応してもらい手術件数は昨年より増加傾向にあります。糖尿病網膜症に関しては薬物治療の発展・進歩のおかげで以前より重症化した患者さんは減少傾向にありますが高木教授の元には連日重症患者さんが紹介されてきております。網膜剥離は連日紹介されますが当日、翌日には臨時手術対応ができておりますのでこれからも断らない専門外来を継続していきたいと思えます。



手術指導
(豊田・向後)



手術
(海老原)

緑内障外来

徳田 直人

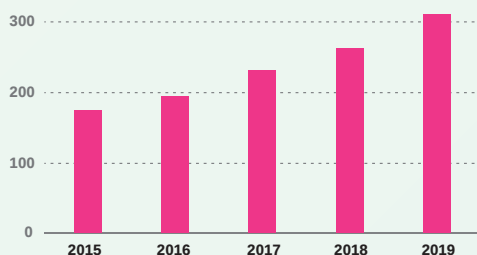
緑内障外来は、毎週月曜の午前・午後（山田・豊田・小島・徳田）と水曜の午前（佐瀬・北岡教授）に行っております。原則として手術が必要と思われる重症な患者さまや、嚴重な術後管理が必要な患者さまを対象に行っておりますが、診断に苦慮する症例や、他施設で緑内障と診断されたものの診断に疑問をお持ちの患者さまへの対応（セカンドオピニオン）もさせていただいております。毎週たくさん紹介患者さまに対応するためには、なるべく病状が安定している患者さまを近隣の施設に紹介するよう心がけておりますが、緑内障という疾患がまさに「超」がつくほどの慢性疾患であるため、完全に次回予約なしの状態にはしばらくケースもございます。そのため緑内障外来では、病状や患者さまのお気持ち、ご希望に十分配慮し、半年後または1年後の予約を取らせて頂くことがあります。その間は紹介元の先生に診ていただき、当院での件や結果と治療方針などを経過報告書や診療情報提供書により紹介元の先生にお伝えして健全な病診連携を行うようにしております。

手術治療については低侵襲緑内障手術（Minimally Invasive Glaucoma Surgery : MIGS）を選択することがさらに多くなり、白内障手術と一緒に MIGS を積極的に行うようになり緑内障手術件数も徐々に増え、ついには年間 300 件を越えました。緑内障その他、線維柱帯切除術、線維柱帯切開術の他、緑内障チューブシャント手術（プレートのあるもの、ないもの）も症例に応じて選択しております。

最後に 2019 年 3 月末を持ちまして、小島香先生が退局します。仕事と育児の両立を実現していた素晴らしいスタッフでした。特に小島先生は教育にかける想いが強く、小島先生のおかげで5年生のBSLが充実したものになっていることは意外と知られていないのかもしれませんが。

緑内障外来は、受診された患者さますべてが診察後に安心して家路につくことが出来る専門外来として、川崎地区はもちろんのこと、さらに広い範囲の緑内障でお困りの患者さまにも対応できるようこれからも頑張ってまいりますので、今後ともご紹介のほど、よろしくお願いいたします。

年度毎の緑内障手術件数



斜視弱視外来

畑 真由美

斜視弱視外来では屈折異常や斜視による弱視の治療、必要に応じて斜視手術を行っております。

弱視の治療では眼鏡装用や定期的な通院が必要となるため、患者や家族とのコミュニケーションが重要と考えております。治療の必要性を理解し、協力してもらうことが必要不可欠となるため、病状や治療方針をしっかりと説明することを心がけています。

後天的な斜視、眼球運動障害の診断や治療については、血液検査、CT、MRI などの検査を行い、原因として全身的な疾患が疑われた場合には、他科との連携をとりながら治療を行っています。

また週一回他大学病院の小児眼科を見学に行かせていただき、日々の診療に生かせるように努めております。より良い治療を提供していけるように頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



第 10 回聖マリアンナ眼科臨床フォーラム（畑）

Medical services

診療案内

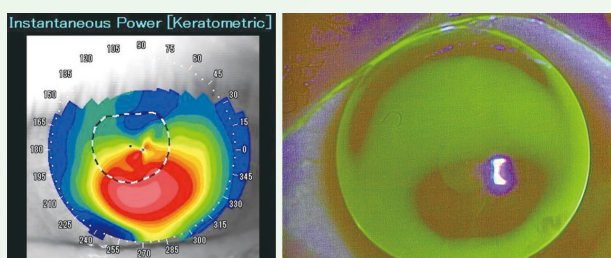
角膜・コンタクトレンズ外来

松澤 亜紀子

角膜・コンタクトレンズ外来は、第2木曜日の午後15時から18時、円錐角膜に対するコンタクトレンズ処方を中心に行っております。角膜疾患に関しては、感染症、遺伝性、自己免疫性、変性疾患など様々な原因で生じるため、治療も点眼薬を中心とした薬物治療から角膜移植を含めた外科的治療まで幅広く、また緊急な対応が必要となる事もあるため、川崎市立多摩病院と連携し感染症や角膜穿孔、角膜移植などに対応しております。

コンタクトレンズ外来では、円錐角膜やペルーシド角膜変性症などの角膜形状異常のある疾患や角膜移植術後の不正乱視など眼鏡では矯正できないような症例に対して、通常の球面ハードコンタクトレンズだけでなく多段階カーブのハードコンタクトレンズなど特殊なレンズの処方を行っております。円錐角膜に対するハードコンタクトレンズ処方は、難しいと思われている方も多いかと思いますが、少しでもコンタクトレンズ処方に対する苦手意識が少なくなるようなレンズ処方についても検討中です。お時間が許すようであれば、コンタクトレンズ外来の見学も可能ですのでご相談ください。

研究に関しては、前眼部光干渉断層を用いた角膜移植前後の角膜形状変化、点眼液がソフトコンタクトレンズの含水率に与える影響、コンタクトレンズ装用に伴う角膜上皮バリアー機能障害についての検討など様々な臨床研究を継続し、日常臨床に役立つ情報提供に努めております。



NICU

重城 達哉

聖マリアンナ医科大学総合周産期母子医療センターは神奈川県にある5つの総合周産期センターの一つであり、川崎市の周産期センターを統括する役割を担っております。それに伴いNICU入院患者数は年間約250名を超えています。また近年では高齢での出産が増加していること、診断技術の向上により胎児診断を受ける症例が増加していることより、今後はその数が増えていくことが容易に考えられます。

そして当院の新生児科の治療技術の進歩に伴い、2007-2011年における500g未満の児の生存率が25%であったところが2014-2018年においては75%近くまで跳ね上がっており、1000g未満の児においても生存率は90%を超えております。

以上の事から大学病院におけるNICU外来の重要性は年々高まっていくと思われます。当院のNICU外来診察は新生児科と密に連携を取り、週2回の診察を行っております。その都度、患者様の御両親に対し病状や汎網膜光凝固術に関する治療に関して、分かりやすいようレジメンを作成し、不安を与えないよう説明に配慮しております。

また私事ではありますが、自分の妹も超低出生体重児であり、未熟児網膜症に対して汎網膜光凝固術を行っています。その為未熟児網膜症の経過を間近で見ており、新生児の眼を守る事の重要性を人一倍感じております。今後はルセンチスの未熟児網膜症に対する保険適応拡大に伴い、投与可能な体制を新生児科Dr.、スタッフと協力し合い、整えていきます。

新入局者紹介

佐藤 圭司

聖マリアンナ医科大学病院 眼科学教室に入局をして気が付けば2度目の4月を迎えました。昨年度は大学院に通いつつ週に1.5日の手術日と外勤を含め約4日の外来日を担当させていただきました。

眼科医としての生活が始まった当初は手術・外来ともに日々が未知との遭遇であり、診断や治療方針について悩まされたり自身の技術的な面でふがいなさを感じることばかりでした。当院の先輩方はみな驚くほど優しい方ばかりで、困ったことや疑問を尋ねると外来中でも自分の事そっちのけで時間を割いて親切に指導してくださいました。また気持ち的に落ち込んだことがあるとすぐに食事に連れて行っていつも話を聞いて下さるなど、上級医との距離感の近さは当院の1番の魅力として挙げられると思っております。

学会発表等も1年で4回ほど演者を経験させていただき、慌ただしくも公私ともに充実した日々を過ごすことが出来ました。

眼科医としては未熟で至らない点ばかりですが、昨年の4月と比べると遥かに成長した自分がいると思っております。患者さんにより良い医療を提供出来るように邁進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

えびすだに 戎谷 さくら

2019年度より聖マリアンナ医科大学病院眼科学教室に入局致しました戎谷さくらと申します。

聖マリアンナ医科大学を卒業、同大学での初期臨床研修を経て、入局致しました。

この1年間は、病棟での様々な術後診察や外来での診察、手術、当直と数多くの経験を積ませていただきました。

網膜疾患をはじめ前眼部病変や緑内障など様々経験し、硝子体注射などの手技から始まり白内障手術なども数多く執刀させて頂き、非常に充実した1年間を過ごさせて頂きました。

日々自身の未熟さを実感する日々ですが、素晴らしい上級医の先生方より熱心にご指導頂き、多くを学ばせていただいております。

今後もしも迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、精進してまいりますので今後ともご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

新入局者紹介

吉村 雅弘

今年度より聖マリアンナ医科大学眼科学教室に入局致しました。吉村雅弘と申します。他大学出身で研修病院も他院でしたので、最初は不安でいっぱいでした。しかし上級医の先生方が丁寧に指導いただき、同期の支えもあり、一年間充実した日々を送ることができました。

まだまだ未熟な部分ばかりで至らぬ点多々あると思いますが、一日でも早く、一人前の眼科医となるよう精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

一年前、眼科医一年目の未熟者であるのに加え、産休後の復帰であったため、最初は続けていけるのかと不安な気持ちでいっぱいでした。

突然熱を出す子供にひやひやししながらも育児との両立を続けることができたのは、上級医の先生方からアドバイスやサポートを頂いたおかげです。

まだまだ未熟で至らない点もあり、ご迷惑をおかけすることもあります。精進してまいりますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

佐古 奈々媛

こんにちは。昨年の8月より水曜日、金曜日の週2日お世話になっている佐古奈々媛と申します。防衛医科大学を卒業し、海上自衛隊医官として普段は自衛隊横須賀病院で勤務しています。自衛隊病院のみの勤務では症例や経験が不足することから、週2日外部病院で研修を行える「通修制度」という制度があり、これを利用してマリアンナで学ばせていただいています。現在卒後4年目（眼科専攻医2年目）ですが、自衛隊の業務（災害派遣、海外派遣、検診業務等）が突発的に入ることが多く、眼科医としての経験や知識は同期の先生方に遠く及びません。このような状況ですので、限られた機会を大切に、研鑽に励んでいきたいと考えています。今年度も御指導、御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

花田 真由

聖マリアンナ医科大学を卒業後、川崎市立多摩病院での初期研修を経て、今年度より眼科教室に入局いたしました。

地域の患者さんのために働く眼科医の父の背中を見て育ち、自分も同じ道に進みたいと思い眼科医を志しました。

日常診療では、わからないことは尽きず、悩むことが沢山ありますが、教科書を読み調べ上級医の先生方に確認しながらの診察はとても勉強になります。外来での初めての処置や手技はとても不安でしたが、丁寧なご指導のもと、できることが少しずつ増えてきています。

また、白内障手術に加え、角膜移植や眼瞼手術など研修医時代には経験できなかった手術も学ばせていただいております。

Research 研究紹介

ラボ便り・網膜基礎

2019年4月から東京大学 先端科学技術研究センター 代謝医学分野 酒井研究室に国内留学させていただきます。

今回注目したタンパクである jmjd1a はヒストン脱メチル化酵素として知られており、jmjd1a 遺伝子欠損マウスが高脂血症、抗インスリン血症、肥満を呈することから、以前は代謝関連遺伝子の発現に関与していると考えられていました (Inagaki T, et al Genes cells 2009;14:991-1001)。しかし jmjd1a が必ずしもヒストンの脱メチル化を介して転写制御を行っているわけではなく、ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 γ (PPAR γ : Peroxisome Proliferation-Activated Receptor γ) を始めとする転写因子とタンパク複合体を形成することによって様々な遺伝子の転写制御に関与していることを報告されています (Abe Y, et al Nat Commun 2015;7:6:7052)。また、近年 jmjd1a が腫瘍における血管新生に関与しており、jmjd1a をノックダウンすることで血管新生が抑制され、さらに VEGF 阻害薬による血管新生抑制効果が、jmjd1a をノックダウンすることで相乗効果を得られることが報告されています (Osawa T, et al Cancer Res 2013;73:3019-

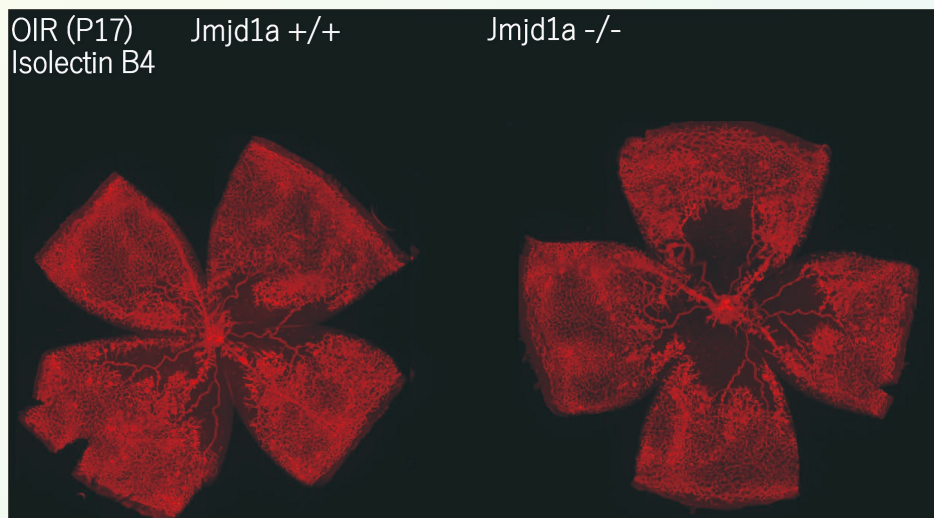
28)。現在、jmjd1a が糖尿病網膜症においてどのように影響しているかはわかっていません。しかしながら、糖尿病網膜症は低酸素状態の結果、血管増殖が生じる疾患であり、腫瘍と病態が似ている部分も少なくないため、jmjd1a が腫瘍と同様に、**VEGF とは異なるメカニズムで血管新生に関与している可能性は非常に高く**、その分子機構を解明することは、必ずや糖尿病網膜症における新規治療薬の開発へと繋がると考えられます。

現在は jmjd1a 遺伝子欠損マウスを高圧酸素下で飼育した後、通常酸素下で飼育することによって発症する未熟児網膜症モデルを作成し、網膜異常血管の発生が jmjd1a 欠損マウスで抑制されるか、検証しています。傾向として異常血管が減少する傾向は認めますが、出生数が少なく、マウスの数を増やしている状態です。

また、マウスの実験に平行して、HUVEC (Human Umbilical Vein Endothelial Cells) で の tube formation assay を用いて、低酸素培養下 (O_2 0.5%) での jmjd1a ノックダウンの作用の検討を行っています。

引き続き実験を行っていき成果を残せるように頑張りますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

関根伶生



Research 研究紹介

Mechanisms of Optic Nerve Damage in Glaucoma

Molecular Neuroscience, Biology and Biochemistry of
Optic nerve and Retinal Ganglion Cells

Description

Basic science research under Dr. Kitaoka's direction focuses on understanding the molecular mechanisms of glaucomatous optic nerve damage. Our in vivo models include the TNF-induced optic nerve damage and the hypertensive glaucoma model in rats. TNF is associated with certain types of glaucoma. We are collecting optic nerve samples from rats and mice and analyzing gene and protein expression patterns that are altered in glaucomatous optic nerve and retina using DNA microarrays and proteomic technologies, as well as conventional molecular biology, biochemistry and genetic methods. As a rapid RGC loss model, NMDA model is also studied. Fluorogold labeling from superior colliculus is available in our lab. The other interests are microglial activity, the stress protein response, and autophagic flux in a glaucoma model. Gene and protein expression studies may lead to a better understanding of the regulatory events involved in axonal degeneration and RGC apoptosis, and provide molecular targets for the development of new therapeutic agents with neuroprotective effects in order to prevent or delay the loss of axon and RGC in glaucoma.

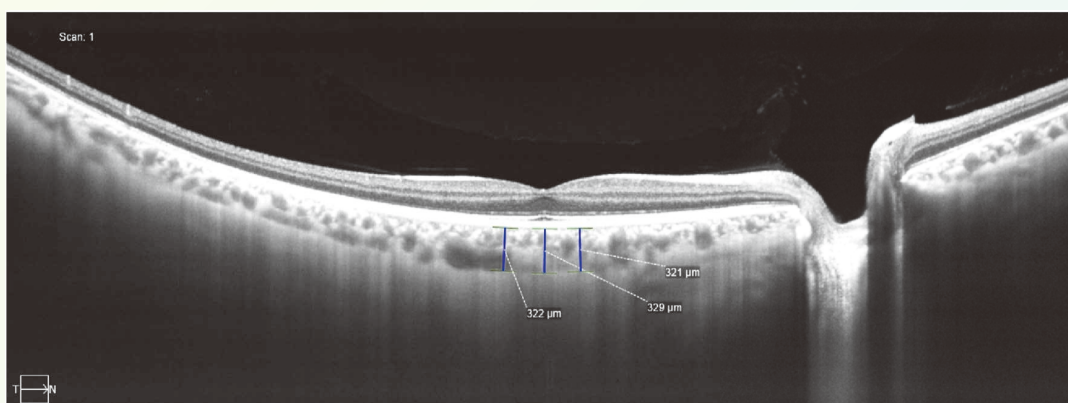
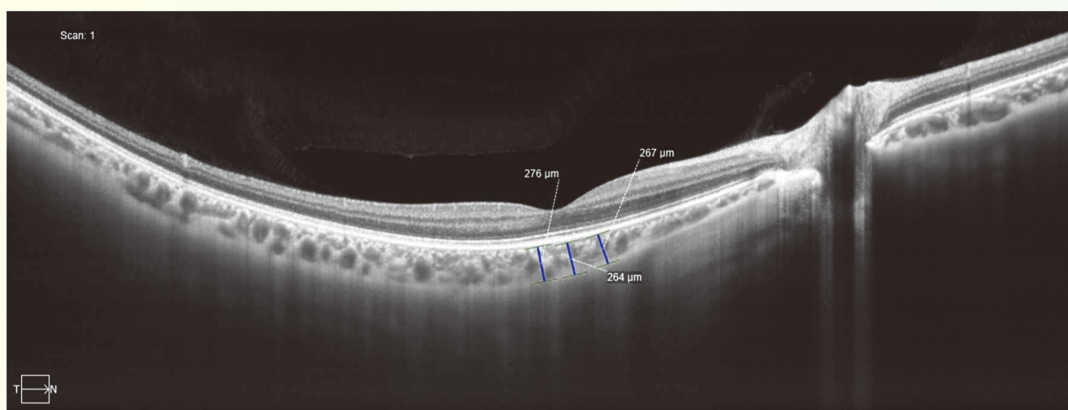
Yasushi kitaoka

網膜臨床研究

網膜の臨床研究としては黄斑円孔に対する内境界膜の半側耳側剥離の前向き研究を継続して行っておりその成果を FloRetina や Euretina で発表させていただきました。さらには日本眼科学会や臨床眼科学会などのシンポジウムで紹介されることもあり一定の評価は得られてい

ると安堵しています。現在は網膜分層円孔の治療法の研究、正常眼における後部硝子体剥離の観察研究を並行して行っていますが、昨今の COVID 問題により発表や講演の機会が少ないと思われますのでこれを機にしっかりデータをまとめておきたいと考えています。

向後 二郎



Research 研究紹介

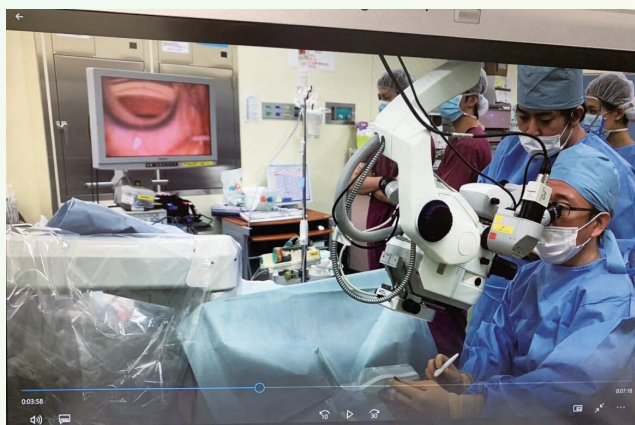
緑内障臨床研究

当院の緑内障手術はグラフで示すように、ここ数年でだいぶ印象が変わりました。Minimally invasive glaucoma surgery (MIGS) に含まれる ab interno trabeculotomy (μ LOT)、白内障手術併用眼内ドレーン (iStent) 挿入術が増え、その反面、ab externo trabeculotomy は小児緑内障（以前の早発型発達緑内障や遅発型発達緑内障）にのみ行うようになりました。また難治症例が増えたせいか、線維柱帯切除術が増えた印象があります。そのため 2019 年度は主に MIGS の術後成績について検討しました。まずは 9 月に熊本で行われました第 30 回日本緑内障学会では筆者が「iStent の手術成績と術後所見について」というタイトルで発表しました。当院では iStent についても緑内障初期から中期の症例については積極的に行ってききましたが、件数を重ねる毎に自分なりにコツや問題点が見えてきたのでそれらについてまとめてみました。また山田雄介任期付き助教が「水晶体再建術併用 μ LOT の手

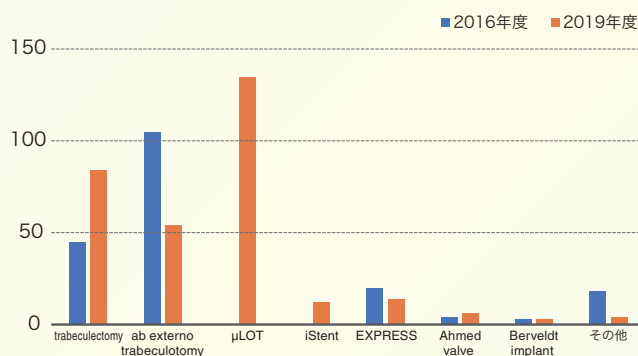
術成績と予後不良因子」、豊田任期付き助教が「 μ LOT 時の線維柱帯除去の効果について」について発表しました。 μ LOT も線維柱帯をただ切開するのではなく、切開した線維柱帯をピンセットでつまんで剥がしてくることにより効果が異なるかについて検討してみました。また 10 月に行われた、第 73 回 日本臨床眼科学会では原飛鳥任期付き助教が「緑内障チューブシャント手術（プレートのないもの EX-PRESS）の術後長期成績」について発表しました。筆者には EX-PRESS は症例を選んで使用すれば合併症の少ない有効な濾過手術であるという印象がありましたので、データをまとめてみました。

このように若い医局員が多くの学会発表をしています。彼らがまだ自分でどのようにスタディを組み立て、その後発表、論文作成にまで結実できていないことが現状です。2020 年はそれらの点についてより一層指導していきたいと思っています。

徳田直人



手術風景（徳田）



Educational activities

教育活動

教授回診

当院では毎週火曜・金曜日に主任教授による入院中患者さんの回診を行っております。

回診では主に術後の患者さんを中心に診察を行っており、回診時の診察所見はモニターに表示されるため学生や初期研修医、後期研修医が診察のポイントや診察技法を勉強でき非常に教育的で有意義な時間を過ごすことが出来ます。

診断および治療方法に難渋した症例に関して的確なアドバイスを頂けるため、患者さんにとってもより最適な入院治療を提供することが出来ます。

佐藤圭司



医局会

大学病院では毎週月曜に医師、視能訓練士、研修医が集まり医局会を行っております。

術後の経過について報告し、患者の情報を共有することで、治療方針を検討する他、術前患者のプレゼンテーションを後期研修医が行うことにより、手術の適応基準や術式について学ぶ貴重な機会となっております。また抄読会、造影カンファレンス、上級医によるレクチャー、学会発表の予演会など内容は多岐に渡り、様々な角度から高木教授をはじめとした多くの指導医の方々より眼科診療に関する知識を学び、後期研修医の指導の場となっております。

重城達哉



BSL、初期研修、後期研修

- ・BSL は各学生毎に担当症例を決め、手術助手や診察を通して眼科のことを学んでもらっています。医局員から疑問点があるか問いかけるようにし、質問をしやすい環境にするよう努めております。
- ・初期研修は手術助手や外来見学、また実際に細隙灯を用いた診察を経験してもらい、眼科医が普段段のようなことをしているのかを学べるようにしています。またウェットラボで実際に実践することで手術の面白さや難しさを体験してもらい、眼科に興味を持ってもらえるようにしています。
- ・後期研修では、外来診療や手術助手を行い、基本的知識や技能の習熟をします。また白内障手術を患者様の不利益を来さないよう上級医の指導のもと行い、安全かつ効率的にステップアップできるようにしています。

吉村雅弘



手術風景（豊田・研修医）

ウェットラボの紹介

当院では月に1-2回、豚眼を用いた研修を行っています。主に初期研修医や後期研修医を対象に、マイクロサージェリーによる白内障手術の練習を行っております。

上級医の先生方の指導を受け、実践に向け必要な技術を日々研磨しております。

戒谷さくら

Sponsorship 主催学会

第 51 回

神奈川県眼科臨床談話会
(2019.1.14)

特別講演 I

→ 頭頸部、顔面外傷に伴う視覚障害

昭和大学医学部 眼科学講座 主任教授

恩田 秀寿 先生

特別講演 II

→ これからのぶどう膜炎診療

ー見逃してはいけないポイントー

防衛医科大学校 眼科学講座 教授 竹内 大 先生

第 12 回

眼科疾患研究会
(2019.3.7)

特別講演

→ The change of optic nerve head during axial elongation and its relation with glaucoma

Dr. Seok Hwan Kin Associate professor,
Department of Ophthalmology,
Seoul National University, Boramae
Medical Center

第 13 回

眼科疾患研究会
(2019.6.13)

パネルディスカッション

→ 加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 治療薬に関して

多摩病院 松澤 亜紀子 先生

教室 向後 二郎 先生、重城 達哉 先生

特別講演

→ 網膜剥離に対する Primary Vitrectomy の考え方

杏林大学 眼科学講師 厚東 隆志 先生

第 10 回

聖マリアンナ
眼科臨床フォーラム
(2019.5.18)

特別講演 I

→ ケースレポートから考える斜視・小児眼科診療

順天堂大学医学部 眼科学講座

准教授 根岸 貴志 先生



順天堂大 根岸先生

特別講演 II

→ QOV 向上をめざした黄斑疾患の診断と治療

久留米大学医学部 眼科学講座

主任教授 吉田 茂生 先生



久留米大 吉田先生

第 87 回

MRC
(2019.6.20)

特別講演 I

→ 神経保護・再生関連因子を用いた緑内障に対する
新規治療法の探索

東京慈恵会医科大学 眼科 野呂 隆彦 先生

第 14 回

眼科疾患研究会
(2019.9.19)

Expert Panel Discussion

→ Recent results of ab interno trabeculotomy

多摩病院 松澤 亜紀子 先生

教室 向後 二郎 先生、塚原 千広 先生

特別講演

→ 流出路再建術アップデート

慶應義塾大学医学部 眼科学教室

講師 結城 賢弥 先生

第 5 回

聖マリアンナ
眼科シンポジウム
(2019.10.5)

Update in マリアンナ

→ 角膜疾患アップデート 多摩病院 松澤 亜紀子 先生

→ 緑内障診療アップデート 教室 徳田 直人 先生

→ 当院における網膜硝子体手術の現状

西部病院 荒川 明 先生

特別講演 I

→ 難治性網膜剥離疾患の診断と治療

産業医科大学医学部 眼科学教室

教授 近藤 寛之 先生

特別講演 II

→ 眼腫瘍に対する外科的治療の実際

東京医科大学 臨床医学系 眼科学分野

主任教授 後藤 浩 先生

第 15 回

眼科疾患研究会
(2019.12.19)

特別講演

→ 変遷する PCV の概念と治療

京都大学医学部 眼科 助教 大石 明生 先生

京都大
大石先生

Conference presentation

学会発表

第123回 日本眼科学会総会

2019.4 東京

関根 伶生

今年の日本眼科学会総会は東京の国際展示場で行われました。

私は「裂孔原性網膜剥離術後の嚢胞様黄斑浮腫の発症率、発症の予測因子の検討」についてポスター発表させていただきました。ポスター発表においても座長の先生などから鋭いご質問などいただき、非常に勉強になりました。

学会中はシンポジウムなどで各エキスパートによる最先端の研究の勉強させていただき、大変興味深く有意義に過ごせました。この経験を糧にして今後の研究、臨床をより有意義なものにできたらと考えております。

ARVO2019

2019.5 Vancouver

北岡 康史

2019年のARVOはVancouverで開催されました。初めて訪れたのですが、Seattleに似ている印象を受けました。スターバックスも多く、シーフードが美味しくて食文化が高いと思いました(図1)。街並みも洗練されたcityで、高層ビルも多く綺麗な港町であり(図2)、少し郊外には素敵な公園 Stanley Park も位置しておりました(図3)。会場である Canada Place (図4) は中心部にありどこに行くにも便利な場所で、ちょっとした観光名所の Granville Island (図5) も車で5分くらいでした。おそらく水上バスに乗られた先生もいらっしゃるのではないのでしょうか？2020年のARVOは中止となりましたが、いつかこのような場所に普通に行けるようになることを願っております。



図1

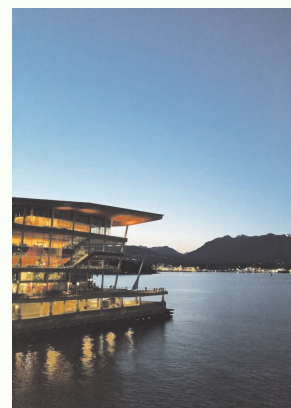


図2



図3



図4



図5

神奈川眼科学会

2019.6 横浜

山田 雄介

2019年6月に横浜で開催され、私が発表した演題は「内方線維柱帯切開術と外方線維柱帯切開術の比較検討」でした。

近年広く施行されるようになってきた MIGS のうち、当科で多く施行している、内方線維柱帯切開術が従来の外方線維柱帯切開術と同等の眼圧下降効果をより短い手術時間で得られる可能性について示唆することが出来ました。

発表に際しては、準備の段階から日頃より緑内障チームの上司としてご指導いただいている徳田先生に多大なるご協力をいただきました。

発表自体は、反省点も多く残りましたが、今後も多くの発表を行えるよう精進して参ります。

場所でした。初日の開催直前に Rizzo 先生達にランチを誘っていただきメーカーの方々やベルギーの Carl Claus 先生達とご一緒しました。そろそろ初日のスタート直前というのにガンガン wine を呑んでいる Rizzo 先生を見て文化の違いとは恐ろしいものだと感じました。次回は2021年開催予定ですが Rizzo 先生もお話していたように参加者の増加により小さい街であるフィレンツェでは開催できないようで Roma での開催を予定しているようです。COVID で大打撃を受けたイタリアですが2021年6月には日本からも参加できることを願っています。



FloRetina

2019.6 Firenze

向後 二郎

2019年6月にイタリアのフィレンツェで行われた第3回 FloRetina に一般講演で参加してきました。この学会はかの有名な Stanislao Rizzo 先生が Eckardt 先生の主催する Frankfurt Retina Meeting に影響を受けて始まった網膜硝子体専門の学会です。あまり馴染みのない会かもしれませんが世界中から網膜硝子体専門家が集まり講演やシンポジウム、ライブサージャリーを行います。今回は日本からの一般講演はなんと僕一人でした。シンポジウムや座長には名古屋市立大学の小椋教授、ライブサージャリーには 27G 硝子体手術の pioneer の高槻の大島先生、横浜市立大学の門之園教授が召集されていました。会場はコングレッシ宮殿でなかなか雰囲気のある

19th EU Retina Congress in Paris

5-8 September 2019

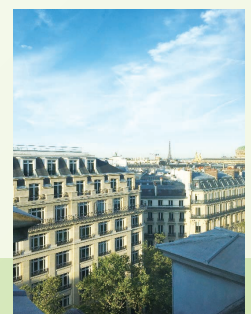
高木 均

SPEAKERS' CORNER

Vitreoretinal Surgery

H.Takagi, T.Jujo, A Shiono

"Impact of hemi-temporal ILM peeling on superficial retinal displacement in macular hole surgery"



Conference presentation

学会発表

第30回 緑内障学会

2019.9/6-8 熊本

豊田 泰大

2019年9月に熊本で開催された緑内障学会に参加させていただきました。

私は「内方線維柱帯切開時の線維柱帯除去の効果について」というテーマで一般口演での発表を行いました。

私は2年連続で緑内障学会で発表させていただき、今回は1年後輩の山田雄介先生が初めての一般講演での発表となりました。

学会会場では薬物治療、手術治療、基礎研究と幅広い分野での発表があり、大変勉強になりました。

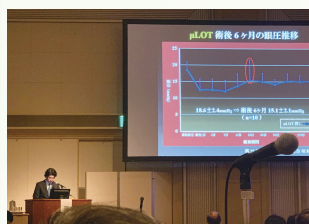
また他大学の若手の先生とお話しする機会もあり大変刺激になりました。

熊本に着いたものの宿が取れていないといったトラブルもありましたが、それも良い思い出となりました。

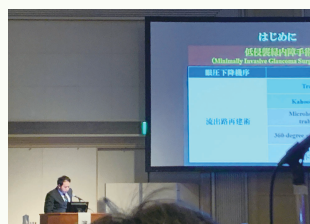
今後も患者様により良い医療を提供するため、学会に積極的に参加して知識・技術のブラッシュアップ、アップデートに励みたいと思います。



塚原



山田



豊田

Eu Cornea

2019.9 Paris

松澤 亜紀子

^{10th} Eu Cornea は、パリで9月13、14日に開催されました。Eu Cornea は、角膜移植や感染症、円錐角膜、屈折矯正手術、涙液などオキュラーサーフィス疾患について熱い議論が交わされておりました。私は、カラーコンタクトレンズによる羞明軽減効果についてポスターセッションで発表いたしました。夜は、狂犬病ワクチンの開発に成功にしたルイ・パスツールが設立したパスツール研究所内で開催された、角膜移植 surgeon の会合に参加し、最先端の移植について学ぶことができ大変刺激になりました。学会終了後には、パリから車で1時間ほどのカーンという都市にある、コンタクトレンズ工場見学を致しました。こちらの工場では、中央がハードコンタクトレンズ、周辺部がソフトコンタクトレンズで構成された円錐角膜用の特殊なレンズを作っていました。1つ1つ手作業で作っている現場を見学することができ、とても楽しく貴重な経験をさせていただきました。今回の経験が今後の研究や診療につなげてゆければと思います。

第 39 回日本眼薬理学会

2019.9 名古屋

佐瀬 佳奈

2019 年 9 月に名古屋市立大学で開催され、分子神経科学大学院生の藤田先生と佐瀬、北岡教授の 3 名が網膜神経節細胞・視神経軸索保護をテーマに演題発表して参りました。

学会の日程は土・日の 2 日間で会場は 1 つだけと比較的小規模な学会ではありますが、視神経・網膜硝子体・角膜と多岐にわたる眼科疾患の基礎的な研究の成果や臨床的な観点からの発表がありました。特にシンポジウムや特別講演が充実しており、色々な大学の教授がそれぞれの専門分野を新しい情報を踏まえご講演してくださり、普段あまり触れることのない分野の内容も勉強することが出来ました。

他の大学の今やっている研究は iPS をつけた再生医療など規模の違いを見せつけられるものもあり、一緒にするのはおこがましいですが私も基礎研究に携わっている身として少しずつでも研究を進めていこうと思えるような刺激をもらえる学会でした。

第 25 回 糖尿病眼学会

2019.9 大阪

藤田 直輝

2019 年 9 月 27 日から 28 日にかけて第 25 回糖尿病眼学会ならびに第 34 回日本糖尿病合併症学会が開催されました。

私はグルタミン酸による網膜神経節細胞障害に対するペマフィブラート内服による神経保護効果に関して発表させていただきました。私は緑内障や糖尿病網膜症をはじめとした神経障害について研究しておりますが、合併症学会では眼科のみならず糖尿病内科や神経内科など、普段とは違う視点から全身管理や神経障害へのアプロー

チの最先端を学べる大変興味深い経験となりました。

今年の第 26 回糖尿病眼学会は 10 月 30 日から 31 日にかけて当医局主催でホテル日航金沢にて開催されます。昨年の経験を胸に医局員一丸となって大いに盛り上がる会にしたいと思っております。

今年も日本糖尿病合併症学会との合同開催となります。高齢化が進む中で普段とは違った角度から今一度糖尿病と向き合うことのできる貴重な機会だと思いますので是非金沢まで足をお運びくださいませ。

第 73 回日本臨床眼科学会

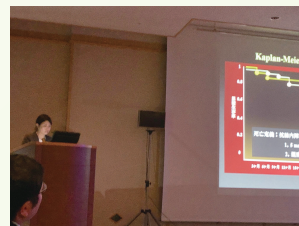
2019.10 京都

大坪 瑞季

平成 31 年 10 月 24 日～27 日の 4 日間にわたり、京都で第 73 回日本臨床眼科学会が開催されました。当院からは、伊藤由香里先生が「診断に苦慮した涙腺導管炎の 1 例」、原飛鳥先生が「緑内障チューブシャント手術の術後長期成績」、戎谷さくら先生「脱毛用医療レーザー誤照射により脈絡膜新生血管を発症した一例」、私が「裂孔原性網膜剥離手術における 27-gauge 硝子体システムの有用性の検討」について発表させていただきました。とても貴重な経験となり、ご指導いただいた先生方にも感謝しております。

また、幅広い分野の講演から自分の見解を深め、知識を吸収する機会となりました。

今後とも向上心を持ち、知識を深めて参りたいと思います。



原

Medical office activities

医局活動

初期研修医歓送迎会

当科ではローテートしてくれた研修医の先生方に眼科の魅力を伝えるべく、歓送迎会を開いております。日々の診療の話だけではなく、入局の決め手や入局後の生活など研修医の先生方が気になることを話しております。眼科に興味はあるものの研修終了後の進路に悩んでいる研修医も多く、初期研修や歓送迎会を通じて眼科の良さを伝え、研修終了後も当科で働きたいと思ってもらえるようにしています。

吉村 雅弘

同窓会学会

同窓会学会は毎年2月の日曜日に当院病院本館3階大講堂(院内チャペルの隣)で行っております。令和1年度は特別講演に日本医科大学武蔵小杉病院 眼科教授小早川 信一郎先生をお招きし、「多様化する白内障手術」についてご講演を賜りました。日常診療の中で疑問に思っている点などについて非常に分かりやすくまとめたいただいた内容であり、大変勉強になりました。

また例年特別講演の前に新入局員によるお披露目も兼ねた一般講演発表や医局員による一般講演発表、大学院を卒業した医局員から研究成果の報告と教育講演が行われております。令和1年度は新入局員発表では私、佐藤圭司が「当院の硝子体手術件数の推移及び内訳の割合の変化について」および「若年健常者を対象とした観察研究」について発表させていただきました。豊田泰大 任期付き助教より「当院の緑内障手術の現状」について、また令和1年度大学院を卒業した塚原千広助教より「TNF誘発視神経変性モデルにおけるNFATc1阻害を介したタクロリムスの軸索保護効果」について発表していただきました。

特別講演後には当大学の関係者ならおなじみの中華料理 飛鳥で懇親会が行われました。

現役医局員からすると普段なかなかお会い出来ないOB・OGの先生方とお話することが出来る貴重な時間であるといえます。

第18回同窓会学会は令和3年2月開催を予定しております。本学会は例年特別講演に著名な先生をお呼びしておりますが、身内の会であり質問しやすい貴重な機会であり是非ともより多くのOB・OGの先生方にご参加いただきたく存じております。前座を務める医局員もOB・OGの先生方に恥ずかしくない報告ができるように、精一杯準備して参りますので今後とも何卒宜しくお願い致します。

佐藤 圭司

忘年会

2019年12月14日に、南青山サンタキアラ教会にて眼科医局忘年会を開催致しました。

多くの開業医の諸先生方はじめ、初期研修医の先生やコメディカルの方々にご出席頂きました。

この1年間の出来事について様々な先生方からお話頂き、次年度入局の先生方の紹介など和気藹々とした会となりました。

恒例になりつつある格付けゲームなども皆で楽しく盛り上がることができました。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

戎谷 さくら

北岡教授就任祝賀会

昨年6月1日付で北岡康史先生が聖マリアンナ医科大学大学院分子神経科学講座の教授にご就任され、7月20日に渋谷のセルリアンタワーで教授就任祝賀会が開催されました。

眼科OBの先生をはじめとして多くの先生方にお集まり頂き、特に北岡教授が今まで大学院で指導された先生方が集合しお祝いすることが出来、貴重な機会になりました。

北岡先生の学生時代や院生の時のエピソードは今の医局員にとっては新鮮で面白かったと思います。今年度も新しい大学院生を迎え、大学院を卒業した先生も含め、ますます研究を発展させる事が出来ればいいなと思います。

佐瀬 佳奈

荒川先生お祝い会

西部病院眼科部長の荒川明先生が、2019年8月、病院教授に御就任なさいました。

西部病院眼科の外来スタッフや西部病院OBの先生方にもお声かけしてお祝い会を企画したところ、40人もの方々が駆けつけてくださいました。他科に異動になった看護師の方々も多数ご参加いただき、改めて荒川先生の人望の厚さを感じました。

会では日々の診療のことだけでなく、プライベートなことまで話が弾み、また荒川先生の優しいお人柄溢れるスピーチもいただき、とても心温まる楽しい会となりました。

今後も西部病院眼科スタッフ一同、荒川先生の御指導のもと、日々の仕事に励んで参ります。

山田 瑛子

Affiliated hospital 関連病院紹介

聖マリアンナ医科大学 **横浜市西部病院**

〒241-0811 横浜市旭区矢指町 1197-1
045-366-1111

令和1年度は網膜硝子体手術と白内障手術を中心に、900件以上の手術を行うことができました。昨年度よりも増加していますが、その理由として①紹介患者数の増加②個々の医師のレベルアップにより患者数増加に対応可能だった③眼科で希望する手術日が他科のそれとあまり重ならず手術室が円滑に使用できた、などが挙げられます。①については、この一年で当院の診療圏である相鉄線沿線で開業された先生が複数いらっしゃるためだと思われます。診療体制には大きな変化がなく、常勤医6名・非常勤医2名の体制を維持できています。医学部の5年生が昨年度同様のべ4週間回ってきました。例年、回ってくる学生さんには日本眼科啓発会議主催のスプリングキャンプのチラシを必ず配布していたのですが、今年は新型コロナウイルスの流行によりキャンプが中止となってしまいました。スプリングキャンプは眼科に興味を持ってもらう良い機会だと思っていましたので中止は非常に残念です。得体のしれぬ病原体への不安から、当院の職員のあいだにも不安が広がっており、業務に支障を

きたす場面もぼつぼつ出てきています。当科では白内障の術前説明は10名前後の患者様に集まっておいただき視能訓練士が一般的な説明をしたのち、担当医師が個別に説明するという形式をとっています。しかし、院内の通達により、多人数が一か所に集まれなくなったため、説明のすべてを担当医師がすることとなりました。我々の負担が増え、つらい状況です。早い収束を願うばかりです。

昨年のこのページに当院で電子カルテに移行する旨を書かせていただきました。昨年5月に滞りなく移行が終了し、間もなく1年が経過します。この間、システムにも慣れ、個人として、あるいは眼科としてはスムーズな診療ができていると感じています。しかし、院内を見渡すと、様式が変わったために、指示出し・指示受けに関するミス、処方に関するミス、患者誤認（複数の電子カルテを開いていたために、記載を別人のカルテにした）などの事例がいまだに散見されるようです。引き続き医療安全に留意して進めていきたいと思っています。

川崎市立 多摩病院

(指定管理者 聖マリアンナ医科大学)

〒 214-8525 川崎市多摩区宿河原 1-30-37
044-933-8111



今年度、多摩病院は4月から新しく赴任された花田真由先生が加わり、常勤医5人体制でスタートしました。花田先生は、産休明けで小さいお子さんの子育てをしながら、外来診療や白内障手術などの知識、経験を着実に積み重ねていくことができました。また、多摩病院勤務が2年目となった後期研修の伊藤由香里先生と戸部洋佑先生は、各々が興味のある分野だけでなく幅広い知識を身に付けることができ、真摯に患者さんの訴えに耳を傾け

対応している姿を目の当たりにし、嬉しくもあり心強く思いました。そのように成長してくれているのも、温かく優しく後輩たちを見守りながら指導してくださっている林泰博先生のお陰であり、多摩病院には欠かせない唯一無二の存在だと思っています。

今年度は、外来における紹介患者さまも増加しており、白内障や眼瞼、角膜疾患に対する手術件数も前年120%増と着実に実績を上げることができました。このことは、若手の活躍もさることながら、多くの患者さまをご紹介くださる近隣の先生方、同窓の先生方、いつも笑顔の外来や手術室などすべてのスタッフの支えがあったことです。この場をお借りして感謝いたします。

さいごになりましたが当院は、川崎市北部医療圏の地域支援病院としての正確な診断と治療だけでなく、優しさや笑顔の絶えない明るい環境で一人でも多くの方の輝く瞳と笑顔を守れるよう頑張りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



Affiliated hospital

関連病院紹介

麻生総合病院

〒215-0021 川崎市麻生区上麻生6-25-1
044-987-2522

当院は、小田急線柿生駅から徒歩約5分という利便性の良い総合病院です。2019年10月にはHCUが開設されました。

眼科外来患者数は1000人/月程度で疾患は白内障・緑内障・糖尿病網膜症等眼科全般の幅広い診療を行っています。外来は2診体制で、医師は聖マリアンナ医科大学・慈恵医科大学・日本医科大学より派遣され、最新の診断、治療を基礎として診療を行っています。外来処置室を備えており、抗VEGF硝子体内注射等を外来にて施行しております。手術は毎週月曜日・水曜日に実施しており、白内障手術を中心に40件/月程です。月曜日の白内障手術は聖マリアンナ医科大学眼科学 高木均教授に御執刀いただいております。

また当眼科には視能訓練士が4名おり、小児の遠視・乱視・近視の専門的検査、斜視・弱視の検査、訓練を行っています。

<対応できる検査・処置>

特殊検査(眼球運動検査[Hessチャート検査、大型弱視鏡など]・視野検査[ゴールドマン視野計、ハンフリー視野計]・蛍光眼底造影検査[FAG]・網膜光干渉断層計[OCT])、各種レーザー治療(糖尿病網膜症[PCレーザー]・後発白内障[YAGレーザー]・緑内障[SLTレーザー、LI(周辺虹彩切開術)、LGP(レーザー隅角形成術)])

<対応できる手術>

白内障(難症例含む)、翼状片、眼瞼内反等

〈外来担当表〉(2020年3月)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 9:00～12:00	上杉 康雄 大坪 瑞季	上杉 康雄 大山 夏子	上杉 康雄 木村 純一	上杉 康雄 大山 夏子	野呂 隆彦 花田 真由	南 早紀子
午後 13:30～17:00	上杉 康雄 大坪 瑞季	上杉 康雄 大山 夏子	(手術)	上杉 康雄 大山 夏子	野呂 隆彦 花田 真由	(休診)

桜ヶ丘中央病院

〒242-0024 大和市福田1-7-1
046-269-4111



桜ヶ丘中央病院は小田急江ノ島線桜ヶ丘駅より徒歩3分、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院からは車で約20分のところにあります。平成25年4月に新築移転しており、現在は病床数171床（一般病棟45床／障害者病棟40床／回復期リハ病棟86床）にて構成されています。大和市内の総合病院の眼科は少なく、地域の先生方、西部病院との連携を密に診療を行っております。

近隣の開業医の先生方からのご紹介も頂き、現在では白内障手術は毎月30～40件ほど施行させていただいています。また加齢黄斑変性や網膜浮腫などに対する抗VEGF薬の硝子体内注射も適宜施行しております。その他、講座代表教授の高木教授による硝子体手術、北岡教授による緑内障手術も行っているため幅広い眼科疾患に対応出来る施設となっております。規模は決して大きくはありませんが、的確で迅速な診断と加療を心掛け、患者様により満足していただける診療を心掛けておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

稲城市立病院

〒206-0801 東京都稲城市大丸1171
042-377-0931



稲城市立病院は信頼とぬくもりのある医療提供を基本理念に掲げ、患者さんの立場に立った質の高い医療の提供を基本方針としている地域医療の中核病院です。

眼科は常勤医1名、非常勤医2名が水曜日と木曜日午後の診療にあたっています。診療内容は白内障、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、緑内障といった眼科一般診療のほか、三歳児検診精査および弱視斜視訓練・治療を行っています。水曜日と月曜日（隔週）を手術日とし、白内障手術（約300件／年）やその他手術に加え、加齢黄斑変性や糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、病的近視における脈絡膜新生血管の症例には抗VEGF薬硝子体内注射（約200件／年）、翼状片切除術や各種レーザー治療を施行しています。

地域医療の中核病院としての役割を果たすべく、日々の眼科診療を行っています。

From the alumni association 同門会だより

この頃思うこと

小鹿倉 寛

先日、30 数年ぶりに橋本真理子さんの以前と全然変わらない明るくパワー溢れる声で、何でも良いから書きなさいとのこと。押し切られて？書いてみました。

太根節直教授時代の医局員で、昭和 23 年と 24 年生まれの 3 名のうち、生存者は自分ひとりだけ、絶滅直前ですね。遺言がわりに、ぶつぶつ書きたい放題。

A. いまだに引退できない老開業医の独り言。

まずは、元気の秘訣と勝手に思い込んでいることを書き散らかします。

1. なにごとにも程々に、気分の乗らないことはやらない。

名誉欲とか、義務感とか、正義感とかは余計なストレスの元ですから。

2. 昔のことは考えない。つまり反省しない。

たくさんの失敗と挫折の苦い思い出が、繰り返し心を蝕みます。

この歳になって、進歩なんて疲れます。

3. 健康診断は受けない。

検診結果の些細な問題点？にこだわり不安にかられて、サプリや薬をあれこれ飲みまくっても、最期の病气から逃れることは不可能でしょう。

いろいろな薬の飲み合わせを続けると、知らないうちに新しい病気になるかもしれませんよ。

4. 運動はやらない。

歳を忘れて無理すると怪我するかも。ただ、歩きます。週に数回は駅前のスーパーマーケットで、あまり体に良くないかも知れないけど美味しいものを買込み、重いバックを両手に坂道を登ります。横浜の坂道はかなりのもので高低差 50m。階段はきついですが、無料の加圧トレーニングのつもりです。次の地震の津波でも助かるかもしれない標高に住むのは良いかもと考え、

日々頑張っています。ただ残念なことに、どんどん増えた新築住宅が邪魔になり、最初の頃は楽しめた富士山は見えなくなりました。

5. 良い音楽を良い音で聴くことにしています。

脳の疲労回復と、精神の安定に有効です。若い頃、女性の歌声に魅せられて以来、時間があれば独り自室にこもって夢心地、狭いながら自分の空間で、家内も娘達にも一度も侵入を許したことはありません。

6. 人間関係の距離を大きめに保つようにしています。

仕事のストレスより、人間関係のストレスのほうが体に悪いと思うから。

人付き合いが苦手なのは確かですけど。

7. 酒と料理は元気の素です。朝食は交代制で野菜をたっぷり使います。

休日には本気で料理します。ワインも少々、酒類が全くだめな家内もワインが飲めたら、楽しかったかもと言います。

8. いろいろ集めた材料をブレンドした雑穀ご飯と甑島の海洋深層水で、体調が良い気がします。

※個人の感想です。

B. すこし真面目に仕事のことも。

1. 開業医は街なかで生活するので、地域内での信用は大切です。どこにでもある怪しい領域には、近づかないよう用心をしています。

2. SLITLAMP の前では集中を切らさずに目を凝らし、相性の悪い患者にちょっとムカついても、次の患者に向かい合うまでの一瞬のリセットを心掛けています。心がぶれるとミスが忍び寄りますから。

3. 目の前の眼を見るだけでなく、その人の背負っている人生にも目を向けるのが、臨床医として大切と感じ

ています。大学時代は、若気の至りか忙しさのせいか、病気に向き合うだけで精一杯でした。暇な開業医の今は十分な時間がありますから、人生の重みに心を向けます。もちろん適度な距離と中立性を保つことは必要ですね。入れ込み過ぎは危険です。

4. 相手の教育程度、理解力にあわせた説明を心掛けています。

駆け出しの頃よりも、経済的および教育格差が酷くなっているようで、若い世代の理解力低下、子を持つ親たちの常識の欠如には、危機感を感じるほどです。

高齢者でなくても、認知症の初期の人口は思いの外高率で、難聴者も多いようで、説明のわかりやすさと、明瞭な発声を心掛けています。※個人の感想です。

C. 毎日の生活の報告も少し。

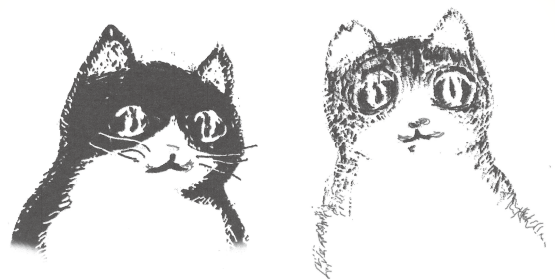
1. 自分が入院したのは白内障で5日間だけで、喘息はあるけどまあまあ元気です。

それに比べて家内は、生命保険会社のブラックリストにのるのではと冗談を言うほど、しっかりと保険を利用して来ました。最近は潰瘍性大腸炎の治療中で、難病患者の家族のストレスもわかりはじめています。ちなみに私は家内をオビョウキジンと呼んでいます。

2. 時間があると、40年にわたり延々と買い集めたCDをハードディスクファイルに変換する作業をしています。iPadの画面でCDのタイトルか演奏者を選べば直ちに聴けますから、あやしい記憶を頼りに棚から目的のCDを探しだす手間が無く、また聴き終わったCDを違うケースに入れてしまって、その後行方不明という惨めな事態も避けられます。まだ、世界中の音楽情報と繋がるという最新ソフトについては様子見です。あまりの大量の情報に溺れ、検索にのめりこんで、聴く

楽しみが置き去りになりかねないと危惧しているから。

3. 庭については、この10年の猛暑の影響で、初期にお気に入りだった小ぶりの針葉樹はほぼ全滅、うまく育って形も整った樹についても、今後来るかもしれない超大型台風で屋根に穴が開く危険を避けようと高さを調整。庭の雰囲気が変わってしまい残念です。
4. 今年は、野菜を育てようかと夢みているけど、まだ作業をはじめていません。
5. 昔は、家族同様の猫を膝にのせて柔らかさと温かさに癒やされていましたが、いまは気まぐれに庭に来る近所の猫と一瞬だけガラス越しに目を合わせるだけで我慢しています。
6. むかしから翻訳ミステリーが好きで、いまだに毎月新刊の文庫を買いこんでいます。すべてをiPad miniに取り込んで通勤時間に読んでいますが、だんだん未読が増えていきます。



From the alumni association 同門会だより

D. 最期にもう一言

いまでも普通に診療できるのは、経営の実務を甥にまかせ、レセプトは外注してレセコンと無関係、人生経験の豊富な大人のスタッフに囲まれ、長続きせず交代の多い若いスタッフとのストレスもない恵まれた環境だからでしょう。

この駅近の平坦な立地を選んで開業した亡き父、いち早くバリアフリーの診療所に建て替えた今は引退した姉、診療を分担する娘、経営担当の甥、わがままな夫を支えてくれる家内、家族あつての幸せを今更のように感じています。



E. ついでにもう一言

今年の正月休み、Discovery Channel の宇宙特集を楽しみました。あまりに広大な空間と長大な時間の流れは自分の脳の理解力の範囲をはるかに超えていますが、ただCGの見事に圧倒されました。機会があったら、皆さんに見ていただきたいと思います。観ることの楽しさを改めて感じました。微力ながら少しでも見る力を助ける仕事を続けられることは幸せです。

F. ベランダから見える景色

5月になりバラがさきはじめました。植木の間隙から、新しく整備された墓地、ピカピカの墓石が整然と並んで、日曜日には法事の読経の声が漏れ聞こえ、重なるようにウグイス、メジロ、シジュウカラ、ガビチョウ、ヒヨドリなどの鳴き声が楽しめます。

毎朝洗濯物を干しながら眺める墓石と、その向こうのグループホーム、これから利用することになる場所がこれほど身近にあると、生きるという事、そして自分に残された時間のことを、日常茶飯事として考えさせられます。

G. 全ての美術館の休館によって、今年の美術鑑賞の予定は完全に崩壊しました。美術に触る機会をもてることがどれほど幸せなのかを思い知らされるこの頃です。

こんな稚拙な文章に目を通してくださった先生方に感謝いたします。

この様な、ありふれた暮らしの、ささやかな幸せが少しでも続くことを願う、この頃です。

2020年5月2日

医局の思い出

鈴木 純 先生

38年前に入局、医局員は20人弱でした。

早速、小松医局長よりのコンタクトクリニック（まだスリットがよく使えない）へ初の仕事、都立荏原病院へ牧先生のお手伝い。

手術は堀越先生に内反症、山本登紀子先生に斜視、小鹿倉寛先生に涙道チューブ、I C C E、大庭先生とE C C E等指導していただいたどの先生にも冷や汗をかかせてしまいました。

内反症は外反ぎみに、斜視手術では針が強膜に貫通、I C C Eではクライオチューブが虹彩に張りつき無虹彩、E C C Eでは、硝子体に核落下等一生忘れられない手術をしました。

東横病院、稲城市立病院を6ヶ月単位で勤務。大学病棟、外来を1年間ずつ経験、清水市の社会保険病院へ単身赴任しました。この時に静岡市のきゅう眼科へ毎火曜

日手術の見学に行きK P E + I O L、角膜移植、緑内障手術等の手際よくきれいな手術に驚き清水への赴任終了後、大学を辞してきゅう眼科に就職、父が急逝するまでの4年間お世話になり、院長の邱信男先生は患者様に接する態度が、やさしくとてもソフトで、手術以外にこの事も大いに影響を受けました。

静岡は西と東の中間にあり、様々な大学から市内の多くの総合病院に派遣された眼科医が、月1度の茶話会と称した勉強会では症例を持ちよった交流があり楽しみでした。

こんな事を思い出しながらお世話になった先生方に感謝を申し上げます。

鈴木 純

Performance

業績 (2019.1-12)

著書

1. 向後二郎

硝子体手術 Tips 165, メディカ出版, 大阪市, 2019:
(ISBN 9784840468701)

第1章 私の手術哲学: 14-15.

第2章 硝子体手術のセッティング: 45-48.

第3章 黄斑上膜手術の Tips: 104-115.

原著

1. Tanito M, Nitta K, Katai M, Kitaoka Y, Yokoyama Y, Omodaka K, Naito T, Yamashita T, Mizoue S, Iwase A, Nakazawa T.

Validation of formula-predicted glaucomatous optic disc appearances: the Glaucoma Stereo Analysis Study. *Acta Ophthalmol.* 2019 Feb;97(1):e42-e49. doi: 10.1111/aos.13816. Epub 2018 Jul 18. PMID: 30022606

2. Tsukahara C, Sase K, Fujita N, Takagi H, Kitaoka Y.

Axonal Protection by Tacrolimus with Inhibition of NFATc1 in TNF-Induced Optic Nerve Degeneration. *Neurochem Res.* 2019 Jul;44(7):1726-1735. doi: 10.1007/s11064-019-02804-6. Epub 2019 May 13.

3. Kanamoto T, Tachibana T, Kitaoka Y, Hisatomi T, Ikeda Y, Murakami Y, Tobiume K, Asaoka R, Kiuchi Y.

Effect of Ocular Hypertension on D-β-Aspartic Acid-Containing Proteins in the Retinas of Rats. *J Ophthalmol.* 2019 May 21;2019:2431481. doi: 10.1155/2019/2431481. eCollection 2019

4. Shinkai Y, Oshima Y, Yoneda K, Kogo J, Imai H, Watanabe A, Matsui Y, Suzuki K, Sotozono C; 27G Vitrectomy Study Group.

Multicenter survey of sutureless 27-gauge vitrectomy

for primary rhegmatogenous retinal detachment: a consecutive series of 410 cases. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.* 2019 Dec;257(12):2591-2600. doi: 10.1007/s00417-019-04448-2.

5. Hayashi T, Matsuzawa A, Oyakawa I, Kato N.

A Modified Technique Using Disposable Soft Contact Lens for Penetrating Keratoplasty Combined With Cataract Extraction and Intraocular Lens Implantation. *Cornea.* 2019;38(11):e50. doi: 10.1097/ICO.0000000000002119. PMID: 31436640

6. Yuda K, Kato N, Takahashi H, Shimizu T, Oyakawa I, Matsuzawa A, Yuda K, Hayashi T.

Effect of Graft Shift Direction on Graft Detachment and Endothelial Cell Survival After Descemet Membrane Endothelial Keratoplasty. *Cornea.* 2019 Aug;38(8):970-975. doi: 10.1097/ICO.0000000000002015.

7. Kanamoto T, Sakaue H, Kitaoka Y, Asaoka R, Tobiume K, Kiuchi Y.

D-Alanine is reduced by ocular hypertension in the rat retina. *Curr Eye Res.* 2019 Oct 4:1-6. doi: 10.1080/02713683.2019.1666995.

8. Minami S, Nagai N, Suzuki M, Kurihara T, Sonobe H, Watanabe K, Shinoda H, Takagi H, Tsubota K, Ozawa Y.

Spatial-sweep steady-state pattern electroretinography can detect subtle differences in visual function among healthy adults. *Sci Rep.* 2019 Dec 2;9(1):18119. doi: 10.1038/s41598-019-54606-z.

9. Minami S, Shinoda H, Shigeno Y, Nagai N, Kurihara T, Watanabe K, Sonobe H, Takagi H, Tsubota K, Ozawa Y.

Effect of axial length and age on the visual outcome of patients with idiopathic epiretinal membrane after pars plana vitrectomy. *Sci Rep.* 2019 Dec 13;9(1):19056. doi: 10.1038/s41598-019-55544-6.

総説・解説

1. 向後二郎
人工視覚 ―網膜橋渡し研究アップデート―, 眼科
2019; 61 (9): 949-955.
2. 向後二郎
血糖コントロールがどの程度改善したら糖尿病患者の
眼科手術が行えるか?, 内分泌・糖尿病・代謝内科
2019; 49 (6): 470-472.
3. 松澤亜紀子
【コンタクトレンズトラブルシューティング】
SCL(カラー)カラーコンタクトレンズによる角膜上皮
障害, OCULISTA ;74: 1-7.

症例報告

1. 佐々木梢, 松澤亜紀子, 松村綾子, 志茂 新, 高木 均.
抗癌薬 TS-1 による角膜上皮障害の 1 例, 臨床眼科
2019; 73 (2): 217-223.
2. 荒賀崇, 萩原悠太, 柳澤俊之, 清水高弘, 長宗我部基弘,
佐瀬佳奈, 鈴木寛俊, 宮入剛, 長谷川泰弘.
網膜中心動脈閉塞症を契機に発見された calcified
amorphous tumor による多発脳塞栓症の 1 例,
Neurosonology 2019; 32 (1): 19-22.
3. 畑 真由美, 根岸貴志, 村上 晶, 高木 均.
外傷性脳底動脈解離後に発症した上下斜視の 1 例,
眼科臨床紀要 2019; 12 (7) 539-542.
4. 山田瑛子, 上杉康雄, 榮 辰介, 末永華子, 松原彩来,
荒川 明.
Valsalva 網膜症が疑われた黄斑前出血合併眼サルコイ
ドーシスの一例, 眼科臨床紀要 2019; 12 (7)
528-531.

学会発表

1. 藤田直輝, 塚原千広, 佐瀬佳奈, 向後二郎, 徳田直人,
北岡康史, 高木 均.
ぶどう膜炎を契機に梅毒の再感染が判明した 1 例,
第 51 回神奈川県眼科臨床談話会, 2019 年 1 月 14 日,
川崎市
2. 大坪瑞季, 関根伶生, 重城達哉, 佐々木寛季, 塩野 陽,
向後 二郎, 高木 均.
裂孔原性網膜剥離に対する 25-gauge と 27-gauge 硝
子体手術の比較検討, 第 51 回神奈川県眼科臨床談話
会, 2019 年 1 月 14 日, 川崎市
3. 四方田涼, 河野友里, 熊谷悠太, 小野寺英孝, 荒川 明.
網膜動脈閉塞症におけるカテーテル治療の有効性, 第
51 回神奈川県眼科臨床談話会, 2019 年 1 月 14 日,
川崎市
4. 原 飛鳥, 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 塚原千広, 佐
瀬佳奈, 小島 香, 北岡康史, 高木 均.
当院における緑内障チューブシャント手術 (プレート
のないもの: エクスプレス®) の術後長期成績, 第 51
回神奈川県眼科臨床談話会, 2019 年 1 月 14 日, 川
崎市
5. 徳田直人
眼疾患についての症例報告 症例 2 『先天全身疾患
(Sturge-Weber 症候群) に関連した小児緑内障の治
療』, 第 11 回 神奈川クロスオーバーシンポジウ
ム, 2019 年 2 月 23 日, 横浜市.
6. Toyoda Y, Tokuda N, Tsukamoto A, Kitaoka Y,
Takagi H.
EFFECTS OF CARTEOLOL HYDROCHLORIDE /
LATANOPROST COMBINATION OPHTHALMIC SOLUTION
ON OCULAR SURFACE. 8th World Glaucoma Congress,
2019.3. Melbourne.
7. Tokuda N, Tsukamoto A, Toyoda Y, Kitaoka Y,
Takagi H.

Performance 業績

EFFICACY AND SIDE EFFECTS OF RIPASUDIL HYDROCHLORIDE HYDRATE (RIPASUDIL). 8th World Glaucoma Congress, 2019.3. Melbourne.

8. Tsukamoto A, Tokuda N, Toyoda Y, Kitaoka Y, Takagi H.

EARLY RESULTS OF MIGS WITH TRABECULAR MICRO-BYPASS STENT COMPARED TO AB INTERNO TRABECULOTOMY PERFORMED IN CONJUNCTION WITH CATARACT SURGERY. 8th World Glaucoma Congress, 2019.3. Melbourne.

9. 北岡康史

特別講演 『緑内障性視神経症に対する軸索を意識した神経保護治療』 埼玉県北部地区緑内障カンファレンス, 2019年3月29日, 熊谷市.

10. 松澤亜紀子

コンタクトレンズ入門, 第123回日本眼科学会総会 教育セミナー3 1から学ぶ屈折矯正入門 - これから始める人のために -, 2019年4月19日, 東京

11. 佐瀬佳奈, 北岡康史, 塚原千広, 藤田直輝, 高木 均. MAPKp38シグナル抑制による視神経軸索保護作用とオートファジー, 第123回日本眼科学会総会, 2019年4月21日, 東京

12. 重城達哉, 関根伶生, 四方田 涼, 佐々木寛季, 塩野 陽, 向後二郎, 高木 均.

27gaugeトロカールを用いた強膜内固定術の術後成績, 第123回日本眼科学会総会, 2019年4月18日, 東京

13. 尾内宏美, 林 孝彦, 清水俊輝, 松澤亜紀子, 加藤直子, 鈴木康之.

Descmet Membrane Endothelial Keratoplasty後の前房内形状変化, 第123回日本眼科学会総会, 2019年4月19日, 東京

14. 関根伶生, 重城 達哉, 塩野 陽, 佐々木寛季, 向後二郎, 高木 均.

裂孔原性網膜剥離術後の嚢胞様黄斑浮腫の発症率、発症の予測因子の検討, 第123回日本眼科学会総会,

2019年4月19日, 東京

15. 向後二郎

糖尿病網膜症検査の進歩、第123回日本眼科学会総会 日本眼科学会専門医制度第69回講習会『プライマリ・ケア・シリーズ65』 糖尿病眼合併症診療の進歩, 2019年4月20日, 東京.

16. Kitaoka Y, Sase K, Tsukahara C, Fujita N, Takagi H.

Axonal protection by nicotinamide riboside with inhibition of p62 in TNF-induced optic nerve degeneration. 2019 annual meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2019.5. Vancouver.

17. 山田雄介, 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 塚原千広, 佐瀬佳奈, 小島 香, 北岡康史, 高木 均.

内方線維柱帯切開術と外の比較検討, 第11回神奈川眼科学会, 2019.6.2. 横浜

18. 和田圭司, 重城達哉, 佐々木寛季, 塩野 陽, 向後二郎, 高木 均.

27Gトロカールを用いた眼内レンズ強膜固定術の後成績, 第11回神奈川眼科学会, 2019.6.2. 横浜

19. Kogo J, Shiono A, Jujo T, Takagi H.

Retinal thickness changes and fovea migration in eyes with idiopathic macular hole after vitrectomy with hemi-temporal internal limiting membrane peeling. 2019 FLORetina 2019, 2019.6.6. Florence

20. 松澤亜紀子, 向後二郎, 重城達哉.

加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 薬治療に関して, パネルディスカッション, 第13回眼科疾患研究会, 2019.6.13 本学

21. 徳田直人

『オキュラーサーフェスから探る、緑内障薬物治療成功の鍵』, オキュラーサーフェスから見た緑内障治療薬, 大塚製薬 e 講演会, 2019.6.26 WEB

22. 高木 均
糖尿病網膜症における PPAR α 作動薬の役割,
Japan Macula Club, 2019.8.25 蒲郡市
23. Takagi H, Kogo J, Shiono A, Jujo T.
Impact of hemi-temporal ILM peeling on superficial
retinal displacement in macular hole surgery. 19th
EURETINA, 2019.9.5 Paris.
24. 豊田泰大, 徳田直人, 山田雄介, 藤田直輝, 塚本彩香,
塚原千広, 佐瀬佳奈, 小島 香, 北岡康史, 高木 均.
内方線維柱帯切開術時の線維柱帯除去の効果につい
て, 第 30 回日本緑内障学会, 2019.9.6 熊本市
25. 山田雄介, 徳田直人, 豊田泰大, 塚本彩香, 塚原千広,
佐瀬佳奈, 小島 香, 北岡康史, 高木 均.
水晶体再建術併用内方線維柱帯切開術の手術成績と予後
不良因子, 第 30 回日本緑内障学会, 2019.9.6 熊本市
26. 塚原千広, 佐瀬佳奈, 藤田直輝, 高木 均, 北岡康史.
TNF 誘発視神経障害モデルにおける視神経でのタク
ロリムスの TNF 産生抑制, 第 30 回日本緑内障学会,
2019.9.6 熊本市
27. 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 藤田直輝,
塚原千広, 佐瀬佳奈, 小島 香, 北岡康史, 高木 均.
白内障手術併用眼内ドレーンの手術成績と術後所見に
ついて, 第 30 回日本緑内障学会, 2019.9.7 熊本市
28. 北岡康史
ROCK 阻害剤の血管拡張作用と神経保護, 教育講演 5
薬物治療の最新エビデンス, 第 30 回日本緑内障学
会, 2019.9.7 熊本市
29. Matsuzawa A, Hayashi Y, Ito Y, Tobe Y, Hanada
M, Hayashi T, Takagi H.
Colored contact lenses for photophobia, 10th
EuCornea Congress, 2019.9.13 Paris
30. 藤田直輝, 塚原千広, 佐瀬佳奈, 高木 均, 北岡康史.
NMDA 網膜神経節細胞死モデルに対するペマフィブ
ラートによる p-c-Jun 抑制を介した神経保護作用, 第
39 回日本眼薬理学会, 2019.9.15 名古屋市
31. 佐瀬佳奈, 北岡康史, 塚原千広, 藤田直輝, 高木 均.
TNF 誘発視神経障害モデルに対するオートファ
ジーと MAPKp-p38 の関与, 第 39 回日本眼薬理学
会, 2019.9.15 名古屋市
32. 北岡康史, 佐瀬佳奈, 塚原千広, 藤田直輝, 高木 均.
TNF 誘発視神経障害モデルにおける p62 発現抑制を
介した nicotinamide riboside の軸索保護効果, 第 39
回日本眼薬理学会, 2019.9.15 名古屋市
33. 松澤亜紀子, 向後二郎, 塚原千広. (パネリスト)
Recent results of ab interno trabeculotomy, 第 14
回眼科疾患研究会, 2019.9.19 本学
34. 荒川 明, 河野友里, 佐々木寛季, 四方田 涼, 高木 均.
硝子体手術を施行した網膜下出血合併増殖糖尿病網膜
症例の検討, 第 25 回日本糖尿病眼学会, 2019.9.27
大阪市.
35. 藤田直輝, 塚原千広, 佐瀬佳奈, 北岡康史, 高木 均.
グルタミン酸傷害に対するペマフィブラート内服による
神経保護効果, 第 25 回日本糖尿病眼学会, 2019.9.28
大阪市.
36. 松澤亜紀子
女性の瞳とコンタクトレンズ, 第 10 回神奈川県眼科
医療従事者勉強会, 2019.9.21 横浜市
37. 徳田直人
低侵襲緑内障手術 (MIGS) の適応と非適応, 第 20
回神奈川県眼科学術講演会, 2019.9.28 横浜市
38. 松澤亜紀子
角膜疾患アップデート, 第 5 回聖マリアンナ眼科シ
ンポジウム, 2019.10.5 川崎市
39. 徳田直人
緑内障診療アップデート, 第 5 回聖マリアンナ眼科
シンポジウム, 2019.10.5 川崎市
40. 荒川 明
当院における網膜硝子体手術の現状, 第 5 回聖マリア
ンナ眼科シンポジウム, 2019.10.5 川崎市

Performance

業績

41. 原 飛鳥, 徳田直人, 豊田泰大, 山田雄介, 塚本彩香, 塚原千広, 佐瀬佳奈, 小島 香, 荒川 明, 北岡康史, 高木 均.

緑内障チューブシャント手術 (プレートのないもの EX-PRESS) の術後長期成績, 第 73 回日本臨床眼科学会, 2019.10.24 京都市

42. 大坪瑞季, 藤田直輝, 関根伶生, 重城達哉, 佐々木寛季, 塩野 陽, 向後二郎, 高木 均.
裂孔原性網膜剥離手術における 27-gauge 硝子体システムの有用性の検討, 第 73 回日本臨床眼科学会, 2019.10.24 京都市

43. 向後二郎
ごきげんな How to use BVA, EVA の真実 Phaco&Vitreotomy, 第 73 回日本臨床眼科学会ランチョンセミナー 4, 2019.10.24 京都市

44. 澤田智子, 向後二郎他
多施設共同後ろ向き研究における滲出型加齢黄斑変性の 2 年成績の 10 年間の推移, 第 73 回日本臨床眼科学会, 2019.10.25 京都市

45. 佐藤尚人, 向後二郎, 米田一仁, 大澤俊介, 平形明人.
硝子体手術クエスチョンバンク 剥離編, 第 73 回日本臨床眼科学会インストラクションコース, 2019.10.25 京都市

46. 戒谷さくら, 向後二郎, 重城達哉, 和田圭司, 高木 均.
脱毛用医療レーザー誤照射により脈絡膜新生血管を発症した一例, 第 73 回日本臨床眼科学会, 2019.10.26 京都市

47. 伊藤由香里, 松澤亜紀子, 花田真由, 戸部洋佑, 林 泰博, 高木 均.
診断に苦慮した涙腺導管炎の 1 例, 第 73 回日本臨床眼科学会, 2019.10.26 京都市

48. 山田瑛子, 河野友里, 佐々木寛季, 四方田 涼, 原 飛鳥, 荒川 明.
初診時に濃厚な黄斑部滲出所見を認めた急性網膜壊死の一例, 第 16 回 Bay Ophthalmic Surgical Seminar, 2019.11.30 横浜市

49. 和田圭司, 関根伶生, 重城達哉, 佐々木寛季, 塩野 陽, 向後二郎, 高木 均.

硝子体手術に多焦点眼内レンズを併用した症例の当院における術後成績, 第 16 回 Bay Ophthalmic Surgical Seminar, 2019.11.30 横浜市

50. 高木 均
特別講演『糖尿病網膜症のエビデンスに基づく治療』, 第 1 回 Yokohama Ophthalmic Meeting, 2019.11.25 横浜市.

51. 松澤亜紀子
忍び寄る輝く瞳の曲がり角! 美しい瞳を守るコンタクトレンズの選択, 第 60 回日本視能矯正学会, 2019.11.30 福岡

52. 鎌塚友子, 松澤亜紀子, 波呂栄子, 安部好美, 林 泰博, 伊藤由香里, 戸部洋佑, 花田真由, 林 孝彦, 親川 格, 加藤直子, 高木 均.
DSAEK 術後眼における角膜形状変化の検討, 第 60 回日本視能矯正学会, 2019.12.01 福岡



Performance 編集後記

前号の編集後記には「医局長の任期を終了」と書いてあります。2年間の医局長時代を振り返ると、人事を考え、そして実際に医局員を動かし、また若手の教育プランを練る・・・といったことは、ある程度の経験を積んだベテラン医師でないと務まらないのではないかと改めて思いました。眼科医局内は「空洞化現象」とでもいいでしょうか、上層部と若手の間がぽっかり抜けてしまった状態です。こんなことを書いているとなんだか筆者の愚痴にしか聞こえないかもしれませんが、筆者が読者の皆様にお伝えしたいことは当医局もここ数年で若手の医師たちがどんどん実力をつけ、空洞化現象を埋めるべく中間層に育ちつつあるという事実でございます。特に彼らの眼科手技の上達のスピードは眼を見張るものがあります。筆者らが研修医のころに比べると白内障手術機器や手術用顕微鏡の精度は明らかに向上しているとは思いますが、彼らの上級医の手技を見ただけである程度の動きを模倣できる能力には日々驚かされています。そんな彼らが今後ますますと育ち、成長していく過程をサポート出来るシステムをさらに構築していきたいと思っています。

さて、本稿を書いている2019年の年度末に世の中で何が起きているかというとCOVID-19いわゆるコロナウイルスによる週末の外出自粛と感染者増加に伴う医療現場の混乱です。当院でもその対応に追われ、ほぼ毎日会議が行われては対策がリニューアルされております。眼科においても外来予約や入院予約のある患者様のキャンセルが多くみられるようになりました。ただそんな中でも、自営業の患者様が店を開けていても仕方ないので今のうちに手術して欲しい、と切実に訴えてくる事例もありました。今この瞬間では、混沌とした世の中であっても、ある程度いつも通りに仕事をさ

せてもらえることに感謝していますが、今後我々眼科医もウイルス対策の一兵卒として前線に送り出されるかもしれません。一日も早いウイルスの終息を願うばかりです。

このANNUAL REPORTですが高木教授の方針で、文字通り毎年発行していくことになっています。OB,OGの先生方やスタッフの皆様にご迷惑にならない年次報告が出来るよう、今後も努力してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

最後に…本稿の冒頭で筆者自身を「ベテラン」と表現してしまいましたが、この「ベテラン」とは本来は古残兵、または老兵を意味する言葉だったようです。ラテン語の「年老いた」という意味の「Vetus」に由来し、anという接尾語をつけて「ベテラン」という言葉が生まれたそうです。それ以降「ベテラン」とは技術に長けた、老練な歴戦の勇士を指すようになったとあります。英語では退役軍人の意味でも用いる言葉だそうです。そう考えると、私が自身をベテランというにはまだまだだと思っています。今後も精進し「ベテラン」という言葉が似合う自分を目指して頑張りたいと思いますので医局員ともども、どうぞよろしくお願い致します。

徳田 直人



- 発行 聖マリアンナ医科大学
眼科学教室 同窓会
- 編集 徳田 直人、橋本 真理子
- 印刷 コジマ印刷

緑内障学会（徳田）



聖マリアンナ医科大学 眼科学教室

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1

TEL 044-977-8111

<http://www.marianna-u.ac.jp>